

科目名	日本とアジア			科目コード	SA103	
英 文 名	Japan and Asia			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(必修)	
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日/1時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	日本の歴史と対外関係史として学ぶ。日本と国際社会が、対アジア、対欧米を含み、地誌学的視点も含めて幅広い学修になるのに対し、本講義では対アジアと特化、歴史を基本とした。					
授業の狙い・ 到達目標	現代社会に生きる我々の立ち位置を的確に把握するうえで、歴史の学修は重要である。本講義では、日本にとって重要な対外関係であるアジア(対中、対韓)、欧米(対米、対欧)などを幅広く学び、日本の対外関係の歴史の基礎が理解できるようになる。					
授業内容の レベル・関連科目	日本の歴史は、いかにアジアをはじめとする外交関係に大きな影響を受けてきたか。それを実感できる講義を展開したい。おそらく、政治史である日本史学概論が一番関連が深い。					
授業外学習 (予習・復習)	高校までの教科書でいうと、「日本史B」と同じ範囲である。その復習が講義をスムーズに理解するうえで有用である。また、講義レジュメの参照資料URLをたどってみると、発展的な復習になる。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。					
参考書・ その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。					
課題に対する フィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。					
成績評価方法	平常点15%、筆記試験85%(中間テスト(20%)含む)					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ?」という問いを大事にしながら学習すること。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。 もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション, 講義の概要やテストの方法などを説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返すとともに, 左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2 回	学習内容 予習 復習	志賀島・金印から, 魏志倭人伝まで。対中関係を中心に5世紀まで。 魏志倭人伝と卑弥呼・邪馬台国につき, 現在の知見を自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
3 回	学習内容 予習 復習	仏教の伝来と遣隋使・遣唐使の意義。5世紀までの朝鮮半島, 中国との関係史を概説する。 遣隋使や遣唐使の派遣によって, 日本が得ようとしたもの, そして実際に得たものを調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	白村江の戦いとその影響を中心に, 7～8世紀の日本社会の「動揺」について概説する。 7世紀後半, 古代律令国家の建設期にいかに対外関係が大きな影響を与えているか, 調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	遣唐使廃止と国風文化, 11世紀の日宋貿易, そして元寇に至る流れを概説する。 国風文化の時代の代表的世界遺産・平等院鳳凰堂について, 調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	14世紀の東アジア国家再編と倭寇・勘合貿易, 16世紀の朱印船貿易に至る流れを概説する。 前期倭寇と後期倭寇の違いについて, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	江戸時代と「4つの口」。鎖国下における外交関係として, アジアとの交流を学ぶ。 4つの口とは何か, 自分で調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。中間テスト形式で, 第2回～第7回までの講義をおさらいする。 第2回～第7回までの講義を改めて復習してくること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	日清戦争前夜。19世紀後半の日中・日韓関係を学ぶ。 中世の冊封体制が, 近代になっていかに変容したか, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	韓国併合(日韓併合)に至る, 19世紀から20世紀前半の対韓関係を学ぶ。 日清戦争と日露戦争の繋がり, 日露戦争と日韓兵卒の繋がりについて, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	満洲事変・日中戦争, 20世紀中盤の日中戦争を戦史として学ぶ。 満洲事変から日中戦争, 日中戦争から北部・南部仏印侵攻に至る歴史を, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	太平洋戦争の背景とその流れについて概説する。 日中戦争から北部・南部仏印侵攻, 真珠湾攻撃に至る歴史を, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	戦後日本とアジア外交。戦後のアジア外交を, 政治・経済双方の視点から学ぶ。 アジア太平洋戦争の「戦後処理」について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	グローバル化と日本・アジア, 今日のアジア諸国との交流を考える。 アジアのなかの日本／アジアと日本という視点から, 現代社会を考えてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
15 回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。中間テスト形式で, 第9回～第14回までの講義をおさらいする。 第9回～第14回までの講義を改めて復習してくること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。

科目名	日本と国際社会			科目コード	SA102	
英 文 名	Japan and International Society			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(必修)	
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日/1時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	日本と世界の関わりを、地域別に学ぶ講義である。取り上げる国は、いずれも日本と関わりの深い主要国であり、その地誌、歴史(対日関係)を学ぶ講義となる。					
授業の狙い・ 到達目標	国際化のなかで、日本の立ち位置・ありようを学ぶことができる講義にしたい。グローバル化が深化する現代社会を生きるにあたり、必須の知識を身に着けることが目標となる。歴史を扱う日本とアジアに対し、「地誌」的に世界を理解できるようになる。					
授業内容の レベル・関連科目	世界の主要国ににつき、地誌学的な視点を中心に学ぶが、時として歴史的な視点も補足する。20世紀の国際政治・経済が学修できる国際関係論やテーマ別に戦後の国際関係を学べる国際協力学が、関連性が高い。					
授業外学習 (予習・復習)	国際ニュースは本講義にとって、とても重要な関連学習である。いま、世界で何が起きているか、積極的に学んでほしい。同時に、その背景となる歴史を考える姿勢を持ってほしい。それが本講義の狙いでもあり、最も効果的な予習・復習となる。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。					
参考書・ その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。					
課題に対する フィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。					
成績評価方法	平常点15%, 筆記試験85%(中間テスト(20%)含む)					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ?」という問いを大事にしながら学習すること。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。 もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、講義の概要やテストの方法などを説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返すとともに、左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2 回	学習内容 予習 復習	【中国】中国社会の現状を概説し、そのうえで戦後の日中関係を学ぶ。 日清戦争や北清事変について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
3 回	学習内容 予習 復習	【朝鮮半島】朝鮮半島の現状を概説し、そのうえで戦後の日韓・日朝関係を学ぶ。 独立後の朝鮮半島と日本の関係につき、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	【東南アジア①】タイ、ベトナムなどインドシナ地域の現状と対日関係を概説する。 在留ベトナム人が、いつから増えたのか。自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	【東南アジア②】マレーシア、インドネシアの現状と対日関係を概説する。 プラザ合意やODAについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	【東南アジア③】フィリピン、カンボジアの現状と対日関係を概説する。 プラザ合意やODAについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	【南アジア】インド、アフガニスタンの現状と対日関係を概説する。 四街道市になぜアフガニスタン人が多いか、自分でも調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	【西アジア】中東地域とのかかわりを、石油を中心に学ぶ。 第1次オイルショック(1973)について、その原因・意義(影響)について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ(日本とアジア)。中間テスト形式で、第2回～第8回までの講義をおさらいする。 第2回～第8回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	【米国】米国の現状と対日関係を概説する。 BMS運動の背景について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	【中南米】ブラジルを中心に、南米の現状と対日関係を概説する。 日系ブラジル人、ペルー人について、自分なりに、その原因や実態を調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	【ヨーロッパ】イギリス、ドイツ、EUを中心に、欧州諸国の現状と対日関係を概説する。 EUの歴史、イギリスのEU脱退について、その背景・意義などを自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	【ロシア】ロシアの現状と対日関係を概説する。 北方領土問題について、日ソ共同宣言(1956)以来の歴史を調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	【アフリカ】アフリカの現状と対日関係を概説する。 アパルトヘイト、南アフリカ共和国について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
15 回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ(日本と欧米)。中間テスト形式で、第10回～第14回までの講義をおさらいする。 第10回～第14回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。

科目名	観光学フィールドワーク			科目コード	SA101	
英 文 名	Fieldwork of Tourism Studies			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	吉元 菜々子		教員コード	165	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・4時限		授業形態	実習
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する			6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	観光は具体的な現場において人と人のかかわりの中で生じている現象である以上、統計やパターンによる理解だけでは零れ落ちてしまうものも多い。本授業ではフィールドワークという調査手法を通じて観光現象について考えていくことで、観光に対する先入観を問い直し、自らの経験を通して発見した問いを探究する。					
授業の狙い・ 到達目標	フィールドワークという調査手法について学び、それを実践することを通じて、観光現象を質的に理解し、自らが発見した新たな課題に対して主体的に取り組む姿勢を養うことができる。					
授業内容の レベル・関連科目	観光学の発展レベルの授業である。「観光学概論(観光学Ⅰ)」、「観光学Ⅱ」の履修を推奨する。					
授業外学習 (予習・復習)	教員の指示に従い、予習・復習を行うこと。また授業での指導をもとに、自身で研究をすすめること。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書は使用しない。必要に応じて授業内で資料を配布する。					
参考書・ その他教材	市野澤潤平ほか編(2021)『観光人類学のフィールドワーク——ツーリズム現場の質的調査入門』ミネルヴァ書房					
課題に対する フィードバック	授業でのディスカッションやプレゼンテーションの際にコメントする。					
成績評価方法	平常点(30%)、プレゼンテーション(30%)、提出課題(40%)により評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	自らで調査を行うため、主体的に学ぶ姿勢が必要である。またフィールドワークでは人とかかわりが必須であるため、礼節をわきまえた行動をすること。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし。					
担当教員への 連絡方法	質問等はメール(yoshimoto@aikoku-u.org)にて受け付ける。					

授業スケジュール

観光学フィールドワーク

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション——フィールドワークの特質 シラバスを読み、授業の概要と目的について理解をしておくこと。 授業の目的を理解し、今後の授業計画について確認すること。
2 回	学習内容 予習 復習	事例からみるフィールドワーク 研究のための調査にはどのような手法があるかについて調べ、まとめておくこと。 フィールドワークという調査手法の特徴について整理しておくこと。
3 回	学習内容 予習 復習	写真観察法とは何か 自分が普段どのような時に写真を撮るかについて考え、まとめておくこと。 授業で学んだ内容を整理し、写真観察法の実践方法について確認しておく。
4 回	学習内容 予習 復習	写真観察法の実践——四街道という街を撮る 四街道市について調べ、まとめておくこと。 授業内で撮影した写真を整理すること。
5 回	学習内容 予習 復習	写真観察法によるフィールドワークの成果発表 整理した写真をもとに、発表の準備をしておくこと。 成果発表へのコメントを整理し、今後の研究のためにまとめておくこと。
6 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの事前準備と実践方法 自分の興味関心について考え、まとめておくこと。 授業で学んだフィールドワークの注意点について整理しておくこと。
7 回	学習内容 予習 復習	受講者によるフィールドの選定 どこでフィールドワークを実施するかについて考えておくこと。 自身が選んだ調査地について調べ、まとめておくこと。
8 回	学習内容 予習 復習	文献からフィールドを知る①——資料収集とその分析 自身が選んだ調査地についての文献を調べておくこと。 調べた文献資料を収集すること。
9 回	学習内容 予習 復習	文献からフィールドを知る②——フィールドワークの焦点を絞る 関連する文献資料を読み、内容を整理しておくこと。 授業で学んだ内容を踏まえ、フィールドワークでの調査項目を作成すること。
10 回	学習内容 予習 復習	中間発表——新たな課題の設定 フィールドワークを実施し、その内容をまとめて発表準備をすること。 授業内でのコメントを踏まえ、さらなる調査をすすめること。
11 回	学習内容 予習 復習	フィールドデータの分析法 フィールドワークで得られた情報をまとめておくこと。 授業で学んだ内容を踏まえ、データの整理を進めること。
12 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークからエスノグラフィーへ これまでの調査成果を文章としてまとめること。 授業で学んだ内容を踏まえ、調査成果の改稿をすすめること。
13 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの成果発表① これまでの研究成果についてまとめ、発表準備をすること。 授業でのディスカッションを踏まえ、研究内容の修正を行うこと。
14 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの成果発表② これまでの研究成果についてまとめ、発表準備をすること。 授業でのディスカッションを踏まえ、研究内容の修正を行うこと。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ——フィールドワークでわかったこと、わからなかったこと これまでの研究成果について最終的なまとめをすること。 授業全体を振り返り、学んだことについて整理すること。

科目名	社会心理学Ⅱ				科目コード	SA210	
英 文 名	Social Psychology Ⅱ				科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	原島 雅之			教員コード	142	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜 日・時 限		火曜日/1時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		◎	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	近年、社会心理学においては目標達成に関する研究が大きな注目を集め、数多くの研究知見が得られている。本教科では、そのような知見をもとに、どのように目標を立て実行すべきか、また、他者のモチベーションをどのように引き出したらよいかについて考える。						
授業の狙い・ 到達目標	目標の設定や追求に関する心理学的研究について学び、自分や他者のモチベーションを高め、適した方略を用いて遂行するやり方を身につけることができる。						
授業内容の レベル・関連科目	心理学基礎(心理学概論Ⅰ)を履修した後の、やや専門的な応用レベルの授業となる。						
授業外学習 (予習・復習)	配布資料について事前に目を通したり、各回のトピックについて自分で調べるなどして授業に臨むこと。復習としては、授業内容と自分の日常生活との関わりについて考え、課題の提出に備えること。					授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特に使用しない。毎回の授業の際に資料を配布する。						
参考書・ その他教材	ハルバーソン H. G. 児島修(訳)『やっつけのける一意志力を使わずに自分を動かす』 大和書房						
課題に対する フィードバック	提出してもらった課題等についてのフィードバックは各回の授業において適宜行う。						
成績評価方法	定期試験(70%)、課題提出など(30%)によって総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日常生活における自分や身の回りの他者の心のはたらきに関心を持つことが求められる。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし						
担当教員への 連絡方法	harashima@aikoku-u.org						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー目標達成の心理学 シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	目標の設定①ー目標設定理論、行動の同定 自分自身の今の「目標」について考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
3 回	学習内容 予習 復習	目標の設定②ー暗黙の知能観、目標プライミング 人の知能や性格は変えられるかどうかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
4 回	学習内容 予習 復習	目標追求のタイプ①ー「獲得型」と「防御型」 配布した質問紙に回答し集計を行い自分のタイプがどちらかを把握しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
5 回	学習内容 予習 復習	目標追求のタイプ②ー「証明型」と「習得型」 配布した質問紙に回答し集計を行い自分のタイプがどちらかを把握しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
6 回	学習内容 予習 復習	目標達成と満足感ー基本的欲求、内発的動機づけと外発的動機づけ 自分の目標を目指す「理由」は何なのかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
7 回	学習内容 予習 復習	目標の選択ー目標追求のタイプと適した目標設定 ここまでの学習内容を振り返り、自分なりに整理しておくこと 自身に適した目標の立て方を踏まえて自分の今の目標をあらためて捉え直すこと
8 回	学習内容 予習 復習	他者への目標設定ー選択の感覚、フレーミングと目標伝染 人からどのようなことを言われたときにやる気が出た、やる気を失ったかを考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
9 回	学習内容 予習 復習	「誘惑」への対処ー誘惑と目標葛藤、セルフコントロール 目標追求を妨げる「誘惑」に負けないようにするにはどうしたらよいか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
10 回	学習内容 予習 復習	目標追求の計画ー効果的な計画、実行意図の形成 自分の現在の目標を達成するための「計画」について考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
11 回	学習内容 予習 復習	自己制御ー自己制御資源と自我枯渇 誘惑に負けてしまうときや我慢ができないときはどんなときか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
12 回	学習内容 予習 復習	楽観主義ー現実的な楽観主義と非現実的な楽観主義 現実的な楽観主義と非現実的な楽観主義の違いについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
13 回	学習内容 予習 復習	長期的な目標追求ー目標をあきらめるときと粘るとき どのようなときに目標追求をあきらめたほうがよいのか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
14 回	学習内容 予習 復習	他者へのフィードバックー心理学的に正しい「ほめ方」 どのような「ほめ方」が他者のやる気を高めるかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
15 回	学習内容 予習 復習	まとめー「目標」に向けてがんばるということ ここまでの学習内容を振り返り自分なりに整理しておくこと 自分の「目標」について今後どのように取り組めばよいかと考えること

科目名	臨床心理学			科目コード	SA211	
英 文 名	Clinical Psychology			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	中村 博子		教員コード	162	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	◎	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	臨床心理学は、人の心の悩みや葛藤について理解し、援助を行う実践的な学問である。臨床心理学の位置づけ、定義、概念、心理機制、対象疾患等について学び、心理検査、心理療法を中心に臨床場面での心理学の手法について実践的に学習する。					
授業の狙い・ 到達目標	臨床心理学の理論的背景について理解し、心理(精神)療法の各種技法について対象別に区別することができる。アセスメントやカウンセリングの基本的姿勢を理解し、生活に活かすことができる。					
授業内容の レベル・関連科目	心理学基礎(心理学概論Ⅰ)を履修した後の、やや専門的な応用レベルの授業となる。					
授業外学習 (予習・復習)	配布資料について事前に目を通したり、各回のトピックについて自分で調べるなどして授業に臨むこと。復習としては、授業内容と自分の日常生活との関わりについて考え、課題の提出に備えること				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特に使用しない。毎回の授業の際に資料を配布する。					
参考書・ その他教材	杉浦京子(著)「臨床心理学講義 実習を通して学ぶ」 朱鷺書房 丹野義彦・坂本真士(著)「自分のところからよむ臨床心理学入門」 東京大学出版会					
課題に対する フィードバック	演習や課題等についてのフィードバックは各回の授業において適宜行う。					
成績評価方法	定期試験(50%)、授業への取り組み姿勢(30%)、課題提出(20%)、によって総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日常生活における自分や身の回りの他者の心のはたらきに関心を持つことが求められる					
科目に関連した 教員の実務経験	地方公務員として児童相談所に勤務(経験)。カウンセラーとしての臨床勤務(経験)。					
担当教員への 連絡方法	授業前後での質問、メールでの質問(hnakamura@aikoku-u.org)を受け付ける。 メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 臨床心理学とは何か。心はどこにあるのかについて考える シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	臨床心理学の成り立ちと概観について学ぶ 臨床心理学で学びたいことを考えておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
3 回	学習内容 予習 復習	臨床心理学の基本的な理論について学ぶ～カウンセリング、傾聴について実践 カウンセリングとは何か、話をさくということとはどのようなことか考えておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
4 回	学習内容 予習 復習	臨床心理学の代表的な理論について学ぶ～カウンセラーの基本的態度、ラポールについて カール・ロジャースについて調べておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
5 回	学習内容 予習 復習	エリクソンのライフサイクル理論について学ぶ。発達について理解する エリクソンについて調べておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
6 回	学習内容 予習 復習	フロイトの理論について学ぶ。ストレスと防衛機制について学ぶ フロイトについて調べておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
7 回	学習内容 予習 復習	学習のまとめ ここまでの学習内容を踏まえ、疑問点をまとめておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
8 回	学習内容 予習 復習	こころの健康とは何か～事例を通して考える こころの健康について、自分なりの考えをまとめておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
9 回	学習内容 予習 復習	主な精神疾患について学ぶ 代表的な精神疾患について症状を調べておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
10 回	学習内容 予習 復習	自死のサイン、対応について考える ニュースや資料などを確認しておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
11 回	学習内容 予習 復習	心理検査の実施 体験と解説(担当教員の児童相談所の実務経験に基づく授業) 自分の性格、特性などを考えておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
12 回	学習内容 予習 復習	心理的援助の方法①－カウンセリング(担当教員のカウンセラーの実務経験に基づく授業) 心の問題を解決する方法としてのカウンセリングについて自分なりに調べておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
13 回	学習内容 予習 復習	心理的援助の方法②－クライエント中心療法 前回の内容をふまえ、効果的なカウンセリングについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
14 回	学習内容 予習 復習	心理的援助の方法③－認知行動療法(担当教員のカウンセラーの実務経験に基づく授業) 「認知のゆがみ」について復習し、それをどのように修正したらよいか自分なりに考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
15 回	学習内容 予習 復習	心理的援助のまとめと心のスキルアップ 心理的援助の方法について振り返り、日常生活で個人が応用できる例を考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと

科 目 名	産業心理学			科目コード	SA212	
英 文 名	Industrial Psychology			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	中村 博子		教員コード	162	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・1時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	産業心理学は、産業活動に関わる諸問題に対する心理学的な取り組みについて学ぶ。組織行動(モチベーションやリーダーシップ、意思決定など)と、人的資源管理(人事評価やキャリア問題)、安全衛生(ストレス・制度や法律)の3視点から、特にメンタルヘルスを重点的かつ実践的に学んでいく。アルバイトや今後の進路選択・就職活動に活かせる内容である。					
授業の狙い・ 到達目標	将来、特に仕事をしていく中で生じる自身のストレスの状態を把握し、不調が生じた場合は早期にそれに気づき、適切な対処を行うことができるようになる。また、様々な産業活動における心理学の知見を理解し、自らの社会生活に活かすことができる。					
授業内容の レベル・関連科目	心理学基礎(心理学概論Ⅰ)を履修した後の、やや専門的な応用レベルの授業となる。					
授業外学習 (予習・復習)	配布資料について事前に目を通したり、各回のトピックについて自分で調べるなどして授業に臨むこと。復習としては、授業内容と自分の日常生活との関わりについて考え、課題の提出に備えること。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特に使用しない。毎回の授業の際に資料を配布する。					
参考書・ その他教材	山口裕幸・他(著)「経営とワークライフに生かそう!産業・組織心理学」 有斐閣アルマ 渡辺三枝子(編著)「キャリアの心理学」 ナカニシヤ出版					
課題に対する フィードバック	演習や課題等についてのフィードバックは各回の授業において適宜行う。					
成績評価方法	定期試験(70%)、演習等授業への取り組み姿勢(30%)によって総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。アルバイト先やニュースなどで、働く人々にとって現在どのようなことが問題になっているかについて積極的に知る姿勢が求められる。					
科目に関連した 教員の実務経験	地方公務員として児童相談所の所属長としての勤務(経験)。リワークカウンセラーとしての臨床勤務(経験)。					
担当教員への 連絡方法	授業前後での質問、メールでの質問(hnakamura@aikoku-u.org)を受け付ける。 メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 産業心理学とは何かについて考える シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	働くということについて考える～働くという気持ちとワーク・モチベーション 自分にとって働くということの意味について考えておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
3 回	学習内容 予習 復習	職場のコミュニケーションについて考える～組織内外のコミュニケーションやチームワークについて アルバイト経験などを踏まえ、職場でのコミュニケーションの成功・失敗例について考えておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
4 回	学習内容 予習 復習	良いリーダーとは～リーダーシップについて考える 良いリーダーとはどのような特徴がある人かについて考えておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
5 回	学習内容 予習 復習	意思決定の困難さ～集団意思決定の演習を通して学ぶ 意思決定について、自分1人で行う時と、大勢で行う時の違いについて考えておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
6 回	学習内容 予習 復習	採用と人事について学ぶ～人事評価や適性など(担当教員の管理職経験に基づく授業) 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
7 回	学習内容 予習 復習	これまでの学習のまとめ これまでの学習での疑問点をまとめておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
8 回	学習内容 予習 復習	多様化する雇用とキャリア形成について学ぶ～キャリア発達、ワークライフバランス どのような雇用形態があるか、その種類と課題を調べておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
9 回	学習内容 予習 復習	自分のキャリアについて考える～演習 現在までの学習を踏まえ、自分のキャリアプランをイメージしておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
10 回	学習内容 予習 復習	安全に働くということ～作業効率や職場の快適性、ヒューマンエラーへの対応 作業効率が向上した時と、エラーが頻出した時の経験を思い出し整理しておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
11 回	学習内容 予習 復習	働くことに伴うストレス～職場のメンタルヘルスの問題や対策 アルバイト経験などを踏まえ、職場で起きやすいストレスについて考えておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
12 回	学習内容 予習 復習	感情労働職のストレスについて(担当教員のリワークカウンセラーの実務経験に基づく授業) 対人の職業におけるストレスについて、体験やインタビュー等から具体例を調べておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
13 回	学習内容 予習 復習	ハラスメントの知識と対応策について ハラスメントに関する訴訟事件などを調べておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
14 回	学習内容 予習 復習	産業労働に関する法律について 産業・組織分野に関連する制度や法律について調べておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
15 回	学習内容 予習 復習	まとめー産業・組織と心理学の関わり ここまでの学習内容を振り返り、自分なりに整理しておくこと 今後自分が仕事をしていく上で必要だと考える心理学的知識についてまとめておくこと

科 目 名	心理学実験実習 I			科目コード	SA206	
英 文 名	Psychological Experiments I			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	原島 雅之／佐久間 直人／ 中村 博子		教員コード	142／148／ 162	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日/2・3時限		授業形態	演習
学位授与方針 との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	心理学の基礎的な実験としてよく知られているものをいくつか取り上げて実施する。実験・観察・調査等の方法について、受講者は実験者および研究対象者(実験参加者、調査協力者等)として参加体験する。毎回の実験についてレポート提出が求められる。なお、授業スケジュールに挙げられている実験内容については受講生の人数や要望などによって変更する可能性もある。					
授業の狙い・ 到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。心理学の実験や調査を単に経験するというだけでなく、得られたデータを分析および考察し、レポートにまとめることを通して、心のはたらきを科学的に説明するための知識や技能を身につけることができる。					
授業内容の レベル・関連科目	実験ごとに毎回のレポート提出があるなど心理学系科目のなかではやや難しめレベルとなっている。また心理学研究法Ⅰ・Ⅱは受講しておくこと、もしくは合わせての受講が望ましい。					
授業外学習 (予習・復習)	各回で行う実験については事前にテキストで確認をしておくこと。実験で得られたデータの集計や分析、レポート執筆については授業内の指示に従って各自行うこと。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計120時間
使用教科書	大和田智文・鈴木公啓(編)『心理学基礎実験を学ぶーデータ収集からレポート執筆までー』北樹出版					
参考書・ その他教材	日本心理学会(編)『執筆・投稿の手引き(2015年改訂版)』 都築学(著)『心理学論文の書き方ーおいしい論文のレシピ』有斐閣アルマ					
課題に対する フィードバック	提出された各回のレポートについては添削した上、返却を行い、授業内においても講評等を行う。					
成績評価方法	実習の参加態度(20%)、実験ごとのレポート(80%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	実験ごとのレポート提出など負担は大きい、「認定心理士」資格取得や心理学関連の卒業研究には欠かせない授業である。実習を行う都合上、遅刻および欠席は特に厳禁とする。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	原 島の連絡先: harashima@aikoku-u.org 佐久間の連絡先: sakuma@aikoku-u.org 中 村の連絡先: hnakamura@aikoku-u.org					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー実験実習を行うための概要説明・注意事項 テキストの第1章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第1章を見直すこと
2 回	学習内容 予習 復習	レポートの書き方ー心理学実験レポートの書き方の説明 テキストの第18章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第18章を見直すこと
3 ・ 4 回	学習内容 予習 復習	実験1:ミューラー・リヤー錯視①ー実験の背景解説および方法の説明 テキストの第2章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第2章を見直すこと
5 ・ 6 回	学習内容 予習 復習	実験1:ミューラー・リヤー錯視②ー実験の実施 テキストの第2章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	実験1:ミューラー・リヤー錯視③ー結果の整理とレポート準備 テキストの第2章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	実験1:ミューラー・リヤー錯視④ーレポート作成 テキストの第2章を読んでおくこと レポートを作成すること
9 回	学習内容 予習 復習	実験1のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと
10 ・ 11 回	学習内容 予習 復習	実験2:鏡映描写①ー実験の背景解説および方法の説明 テキストの第5章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第2章を見直すこと
12 ・ 13 回	学習内容 予習 復習	実験2:鏡映描写②ー実験の実施 テキストの第5章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
14 回	学習内容 予習 復習	実験2:鏡映描写③ー結果の整理とレポート準備 テキストの第5章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	実験2:鏡映描写④ーレポート作成 テキストの第5章を読んでおくこと レポートを作成すること

16 回	学習内容 予習 復習	実験2のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと
17 ・ 18 回	学習内容 予習 復習	実験3: 系列位置効果①ー実験の背景解説および方法の説明 テキストの第7章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第7章を見直すこと
19 ・ 20 回	学習内容 予習 復習	実験3: 系列位置効果②ー実験の実施 テキストの第7章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
21 回	学習内容 予習 復習	実験3: 系列位置効果③ー結果の整理とレポート準備 テキストの第7章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
22 回	学習内容 予習 復習	実験3: 系列位置効果④ーレポート作成 テキストの第7章を読んでおくこと レポートを作成すること
23 回	学習内容 予習 復習	実験3のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと
24 ・ 25 回	学習内容 予習 復習	実験4: 潜在態度①ー実験の背景解説および方法の説明 テキストの第16章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第7章を見直すこと
26 ・ 27 回	学習内容 予習 復習	実験4: 潜在態度②ー実験の実施 テキストの第16章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
28 回	学習内容 予習 復習	実験4: 潜在態度③ー結果の整理とレポート準備 テキストの第16章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
29 回	学習内容 予習 復習	実験4: 潜在態度④ーレポート作成 テキストの第16章を読んでおくこと レポートを作成すること
30 回	学習内容 予習 復習	実験4のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと

科 目 名	心理学実験実習Ⅱ			科目コード	SA207	
英 文 名	Psychological Experiments Ⅱ			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	原島 雅之／佐久間 直人／ 中村 博子		教員コード	142／148／ 162	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日/2・3時限		授業形態	演習
学位授与方針 との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	心理学実験実習Ⅰとは異なる実験を取り上げて実施する。実験・観察・調査等の方法について、受講者は実験者および研究対象者(実験参加者、調査協力者等)として参加体験する。毎回の実験についてレポート提出が求められる。なお、授業スケジュールに挙げられている実験内容については受講生の人数や要望などによって変更する可能性もある。					
授業の狙い・ 到達目標	授業目的は心理学実験実習Ⅰと同様、基礎的な心理学実験の実習を通して、心理学的な測定方法と評価・分析方法を修得することができる。					
授業内容の レベル・関連科目	実験ごとにレポート提出があるなど心理学系科目のなかではやや難しめレベルとなっている。また心理科学研究法Ⅰ・Ⅱは受講しておくこと、もしくは合わせての受講が望ましい。					
授業外学習 (予習・復習)	各回で行う実験については事前にテキストで確認をしておくこと。実験で得られたデータの集計や分析、レポート執筆については授業内の指示に従って各自行うこと。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計120時間
使用教科書	大和田智文・鈴木公啓(編)『心理学基礎実験を学ぶーデータ収集からレポート執筆までー』北樹出版					
参考書・ その他教材	日本心理学会(編)『執筆・投稿の手引き(2015年改訂版)』 都築学(著)『心理学論文の書き方ーおいしい論文のレシピ』有斐閣アルマ					
課題に対する フィードバック	提出された各回のレポートについては添削した上、返却を行い、授業内においても講評等を行う。					
成績評価方法	実習の参加態度(20%)、実験ごとのレポート(80%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	実験ごとのレポート提出など負担は大きい、「認定心理士」資格取得や心理学関連の卒業研究には欠かせない授業である。実習を行う都合上、遅刻および欠席は特に厳禁とする。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	原 島の連絡先: harashima@aikoku-u.org 佐久間の連絡先: sakuma@aikoku-u.org 中 村の連絡先: hnakamura@aikoku-u.org					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー実験実習を行うための概要説明・注意事項 テキストの第1章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第1章を見直すこと
2 回	学習内容 予習 復習	実験データの整理法 テキストの第18章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第18章を見直すこと
3 ・ 4 回	学習内容 予習 復習	実験1: スループ①ー実験の背景解説および方法の説明 テキストの第4章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第2章を見直すこと
5 ・ 6 回	学習内容 予習 復習	実験1: スループ効果②ー実験の実施 テキストの第4章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	実験1: スループ効果③ー結果の整理とレポート準備 テキストの第4章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	実験1: スループ効果④ーレポート作成 テキストの第4章を読んでおくこと レポートを作成すること
9 回	学習内容 予習 復習	実験1のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと
10 ・ 11 回	学習内容 予習 復習	実験2: 透明性錯覚①ー実験の背景解説および方法の説明 テキストの第12章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第2章を見直すこと
12 ・ 13 回	学習内容 予習 復習	実験2: 透明性錯覚②ー実験の実施 テキストの第12章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
14 回	学習内容 予習 復習	実験2: 透明性錯覚③ー結果の整理とレポート準備 テキストの第12章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	実験2: 透明性錯覚④ーレポート作成 テキストの第12章を読んでおくこと レポートを作成すること

16 回	学習内容 予習 復習	実験2のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと
17 ・ 18 回	学習内容 予習 復習	実験3:4枚カード問題①ー実験の背景解説および方法の説明 テキストの第7章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第7章を見直すこと
19 ・ 20 回	学習内容 予習 復習	実験3:4枚カード問題②ー実験の実施 テキストの第7章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
21 回	学習内容 予習 復習	実験3:4枚カード問題③ー結果の整理とレポート準備 テキストの第7章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
22 回	学習内容 予習 復習	実験3:4枚カード問題④ーレポート作成 テキストの第7章を読んでおくこと レポートを作成すること
23 回	学習内容 予習 復習	実験3のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと
24 ・ 25 回	学習内容 予習 復習	実験4:社会的促進と抑制①ー実験の背景解説および方法の説明 テキストの第14章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第7章を見直すこと
26 ・ 27 回	学習内容 予習 復習	実験4:社会的促進と抑制②ー実験の実施 テキストの第14章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
28 回	学習内容 予習 復習	実験4:社会的促進と抑制③ー結果の整理とレポート準備 テキストの第14章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
29 回	学習内容 予習 復習	実験4:社会的促進と抑制④ーレポート作成 テキストの第14章を読んでおくこと レポートを作成すること
30 回	学習内容 予習 復習	実験4のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと

科 目 名	食品機能学				科目コード	SA208	
英 文 名	Food and Function				科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(必修)	
担当教員	市川 遥夏			教員コード	134	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限		水曜日/4時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う				4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する			○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	食品の一次機能(栄養性)、二次機能(嗜好性)、三次機能(生体調節機能)について解説し、特に生体調節機能にかかわる食品、食品成分、その効果およびその作用機序などについて説明する。						
授業の狙い・ 到達目標	食品成分の働き、生体との相互作用、食品に含まれる成分による疾病予防作用を理解できるようになる。						
授業内容の レベル・関連科目	食に関心を持ち、食品科学の専門的な知識を学ぶ。人間文化演習(心理・生活専攻)を履修予定の学生は、なるべく2年次までに単位を修得しておくことが望ましい。						
授業外学習 (予習・復習)	毎回、教員からの指示をよく確認し、予習に取り組む。授業後、各回講義内容を十分に復習し、ノートにまとめること。また、毎回の授業内容に対応した練習問題に取り組むこと。					授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書を使用せず、資料を配布。						
参考書・ その他教材	森田英利・田辺創一 『食品機能学』 第2版 三共出版						
課題に対する フィードバック	課題に対してその場でフィードバックを行う。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	発表・レポート(70%)、小テスト(30%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	自主的に学修すること。不明な点は講義終了後に担当教員に質問する。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし						
担当教員への 連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(ichikawa@aikoku-u.org)						

授業スケジュール

食品機能学

1 回	学習内容 予習 復習	授業の目的と内容、授業の進め方、食品の3機能について学ぶ。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
2 回	学習内容 予習 復習	食品の一次機能(水、タンパク質)について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
3 回	学習内容 予習 復習	食品の一次機能(糖質、脂質)について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
4 回	学習内容 予習 復習	食品の微量栄養素の機能について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
5 回	学習内容 予習 復習	食品の二次機能(味、香り、色)について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
6 回	学習内容 予習 復習	ミネラルの吸収と代謝改善に関する成分について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
7 回	学習内容 予習 復習	腸内環境の調節に関する成分について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
8 回	学習内容 予習 復習	骨の健康・骨粗鬆症予防に関する成分について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
9 回	学習内容 予習 復習	歯の健康・う蝕予防に関する成分について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
10 回	学習内容 予習 復習	抗疲労効果に関する成分について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
11 回	学習内容 予習 復習	活性酸素と抗酸化物質に関する成分について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
12 回	学習内容 予習 復習	高血圧と降圧作用に関する成分について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
13 回	学習内容 予習 復習	抗肥満および予防改善に関する成分について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
14 回	学習内容 予習 復習	機能性食品の制度について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
15 回	学習内容 予習 復習	課題発表、これまでの内容を振り返る。 今までの授業内容について見直し、復習をしてくること。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。

科目名	食品衛生学			科目コード	SA209	
英 文 名	Food Hygiene			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	市川 遥夏		教員コード	134	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日/3時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	食品の安全、食品衛生法と関連法規および食中毒・食品媒介感染症・食品添加物・食品汚染物質などについて学ぶ。それに関する多くの事例を挙げながら解説する。					
授業の狙い・ 到達目標	多くの食品は世界の各地から輸入され、人々に多彩多様な食生活をもたらすことが理解し、健康の維持・増進、疾病の予防に関する食品、食物及び栄養の知識を身につけることができる。					
授業内容の レベル・関連科目	食の安全・安心の問題に対応できる食品の安全性に関する深い知識や考え方を習得する。					
授業外学習 (予習・復習)	毎回、教員からの指示をよく確認し、予習に取り組む。授業後、各回講義内容を十分に復習し、毎回練習問題に取り組むこと。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	川添禎浩『新版 食品衛生学』化学同人					
参考書・ その他教材	特になし					
課題に対する フィードバック	課題に対してその場でフィードバックを行う。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。					
成績評価方法	発表・レポート(70%)、小テスト(30%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	テキストは必ず用意すること。 主体的に学習に取り組むこと。不明な点は講義終了後に担当教員に質問する。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(ichikawa@aikoku-u.org)					

授業スケジュール

食品衛生学

1 回	学習内容 予習 復習	授業の目的と内容、授業の進め方、食品の安全などについて学ぶ。 シラバスを熟読し、授業の概要について理解しておく。 授業内容について振り返り、理解を深めること。
2 回	学習内容 予習 復習	食品の安全、食品衛生法と関連法規などについて学ぶ。 教科書の第2章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。
3 回	学習内容 予習 復習	細菌性食中毒について学ぶ。 教科書の第3章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。
4 回	学習内容 予習 復習	食品媒介感染症について学ぶ。 教科書の第4章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。第2～4回の諸課題をレポートにまとめる。
5 回	学習内容 予習 復習	動物性自然毒食中毒について学ぶ。 教科書の第5章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。
6 回	学習内容 予習 復習	植物性自然毒食中毒について学ぶ。 教科書の第6章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。
7 回	学習内容 予習 復習	化学性食中毒について学ぶ。 教科書の第7章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。第5～7回の諸課題をレポートにまとめる。
8 回	学習内容 予習 復習	課題発表。前半のまとめ。第1回～第7回までの講義をおさらいする。 第1～7回の講義内容を復習しておくこと。 第1～7回の授業内容について振り返り、間違った問題について解きなおすこと。
9 回	学習内容 予習 復習	真菌中毒症について学ぶ。 教科書の第8章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。
10 回	学習内容 予習 復習	食品の変質について学ぶ。 教科書の第9章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。
11 回	学習内容 予習 復習	食品添加物について学ぶ。 教科書の第10章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。第9～11回の諸課題をレポートにまとめる。
12 回	学習内容 予習 復習	食品の器具・容器包装、異物、衛生動物について学ぶ。 教科書の第11章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。
13 回	学習内容 予習 復習	食品汚染物質について学ぶ。 教科書の第12章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。
14 回	学習内容 予習 復習	食品の毒性学について学ぶ。 教科書の第13章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。第12～14回の諸課題をレポートにまとめる。
15 回	学習内容 予習 復習	課題発表、これまでの内容を振り返る。 今までの授業内容について見直し、復習をしてくること。 全15回授業内容について振り返り、諸課題をレポートにまとめる。

科目名	文化人類学			科目コード	SA316	
英 文 名	Cultural Anthropology			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(必修)	
担当教員	山崎 寿美子		教員コード	147	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日/1時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	慣習や価値観が異なる文化について事例を挙げて検討しながら、自分たちの「あたりまえ」を捉え直していく。身近な営みである食をテーマに、その文化的なありかた、食と技術、現代の食事情等について考える。四街道地域を中心にフィールドワークも行う。					
授業の狙い・到達目標	履修生の身近なテーマから文化人類学の基本的な考え方を学び、異文化への関心を深める。普段あまり意識しない自文化について、客観的に捉え直すことができるようになる。内容を覚えるのではなく、履修生それぞれが自分なりに意見をもてるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	関連する論文等を読解できる日本語力および英語力を必要とする。ある事象について自分なりの意見を書いたり述べたりできる。(関連科目)社会調査法、地域ブランド論、循環型社会論					
授業外学習(予習・復習)	常識や固定観念にとらわれず、自文化や異文化について、自分の意見をもっておくよう努めること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	指定しない。					
参考書・その他教材	松村圭一郎『うしろめたさの人類学』ミシマ社、2017年。Ingold, Tim. <i>Anthropology and/as Education</i> . Routledge. 2017.					
課題に対するフィードバック	各回に出した課題に対しては、翌週の授業でコメントをする。					
成績評価方法	レポートなどの課題(50%)、フィールドワークを含む授業への積極的な参加(50%)					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	フィールドワークを実施することが複数回ある。本科目を履修するには「循環型社会論」も合わせて受講すること。また、前期に「社会調査法」および「地域ブランド論」を受講していることが望ましい。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。					

授業スケジュール

文化人類学

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	異文化とカルチャーショックについて考える。 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	人類学のとフィールドワークについて学ぶ。 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	『うしろめたさの人類学』(松村圭一郎著)を読む①人類学的な考え方 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、課題に取り組み提出する。
5 回	学習内容 予習 復習	『うしろめたさの人類学』(松村圭一郎著)を読む②人付き合いについて考える 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	ここまでの振り返り:『うしろめたさの人類学』から学んだことを議論する これまでの資料を読み返し、自分の意見をまとめてくること 他の受講生の意見をふまえて、自分の考えをまとめること
7 回	学習内容 予習 復習	フィールドワーク①四街道市内の街歩き 事前に配布する資料を読んでおくこと 街歩きで気が付いたことをまとめて提出すること
8 回	学習内容 予習 復習	フィールドワーク②四街道市の食と農 事前に配布する資料を読んでおくこと 聞き取り調査で得られた情報をまとめて提出すること
9 回	学習内容 予習 復習	映画「いのちの食べ方」を鑑賞する。 事前に配布する資料に目を通しておくこと。 映画を見て、食の現代的な問題について意見を書き、提出すること。
10 回	学習内容 予習 復習	食の現代的な問題についてのディスカッション 映画の内容を振り返り、議論の要点をまとめてくること。 他の受講生の意見を聞いて、自分の意見をまとめレポートを提出すること。
11 回	学習内容 予習 復習	食の人類学①食べ物の保存に関する在来地 事前に配布する資料を読んでおくこと 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	食の人類学②食文化の継承 事前に配布する資料を読んでおくこと 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	フィールドワーク③四街道市近郊の食文化 事前に配布する資料を読んでおくこと 聞き取り調査で得られた情報をまとめて提出すること
14 回	学習内容 予習 復習	フィールドワーク④千葉県の保存食 事前に配布する資料を読んでおくこと 聞き取り調査で得られた情報をまとめて提出すること
15 回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめを行なう。 配布資料を読み返し、全ての回の授業内容を振り返っておくこと。 全体を振り返り、授業の論点をまとめておく。

科目名	まちづくり論			科目コード	SA315	
英 文 名	Community and Development Study			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	岡庭 義行		教員コード	159	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	まちづくりは、人々のつながりや活動が生み出す「暮らしの風景」をともにデザインしていくことである。本講は、具体的な事例の解説と実践的な講義を通して、まちづくりの意義と可能性について学ぶものである。					
授業の狙い・ 到達目標	[到達目標①]まちづくりの実践事例を講義で解説した用語を用いて説明することができる。 [到達目標②]まちづくりの課題と可能性について、自らの言葉で説明することができる。 [到達目標③]他者と協働して新しい活動や絆(きずな)づくりを構想できる。					
授業内容の レベル・関連科目	まちづくりは、さまざまな学問分野や活動領域の総体であることから、文化、芸術、歴史、地域社会、経済経営、キャリアデザインなどの関連科目を併せて学習とともに、大学外での学びや経験を大切にすることが望まれる。					
授業外学習 (予習・復習)	[事前学習]まちづくりの実践例について調べ、まちづくりの基点となる事情や関係の探究に努めること。 [事後学習]講義内容を実際の社会生活に結びつけて振り返り、他者との協働を実現するために必要なことを自分なりに考えていくこと。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし。事前もしくは講義中にプリントを適宜配布する。					
参考書・ その他教材	・山崎義人他『はじめてのまちづくり学』学生出版社(2021) ・大内田鶴子『世界に学ぶ地域自治 -コミュニティ再生のしくみと実践-』学生出版社(2021) ・松本茂章『文化で地域をデザインする』学芸出版社(2020)					
課題に対する フィードバック	小課題・リアクションペーパーはコメントをつけて返却し、適宜、関連資料を付して解説する。					
成績評価方法	・課題レポート[到達目標①②③](50%) ・小課題・リアクション・ペーパー[到達目標②③](40%) ・講義への参加状況(10%)					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	まちづくりに大切なことは「過程」と「経験」です。人々が笑顔になれるまちづくりとは、どのようなものを意味するのか、既存の考えや常識にとらわれることなく、自由な発想と思考を期待しています。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。 もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション ―育てあうまちづくり― シラバスを精読し講義の概要と方法について確認しておくこと。 講義の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	協働のまちづくり ―社会関係資本― 社会関係資本とはどのようなことを意味しているのか、事前に調べておくこと。 社会関係資本の概念が生まれた経緯や協働のまちづくりについて振り返り理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	生涯学習社会の到来とまちづくり 日本における生涯学習の歴史と現在推進されている施策について調べておくこと。 生涯学習の歴史を振り返り、現在のまちづくりとの連携や展望について整理する。
4 回	学習内容 予習 復習	まちづくりを担う専門職 ―社会教育主事・社会教育士― 社会教育の専門職である社会教育主事・社会教育士の責務と仕事について調べる。 まちづくりにおける社会教育主事・社会教育士の役割と実践事例について振り返り、理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	SDGsとまちづくり SDGsを事前に調べ、これらの取り組みをまちづくりに応用する方策と工夫について調べる。 講義を振り返り、SDGsの理念を反映したまちづくり事例を主体的に調べてみる。
6 回	学習内容 予習 復習	産業とまちづくり 地域に特有の産業や生産物を活用したまちづくりの事例を調べておくこと。 地域の特性を生かした産業や生産物が、まちづくりに与える影響・効果について振り返る。
7 回	学習内容 予習 復習	サブカルチャーの「聖地」 サブカルチャーの「聖地」にはどのようなものがあるか、事前に調べておくこと。 聖地となっている土地、場所、建物などの事例を掘り下げ、まちづくりの事例として理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	「消滅可能性都市」をめぐる議論の課題と展望 消滅可能性都市について調べ、事前に自らの考えをまとめておくことが望ましい。 講義を振り返り、消滅可能性都市に関する理解を深め、将来の議論のための解決策を構想する。
9 回	学習内容 予習 復習	安心のまちづくり(1) 防災 地域の防災計画を概観し、人々が安心と安全を感じるまちの要件について調べる。 各地の防災計画について振り返り、多様なニーズに対応した防災計画について構想する。
10 回	学習内容 予習 復習	安心のまちづくり(2) 男女平等、多様な性の尊重 事前配布資料を通読し、男女平等や多様な性の尊重がまちづくりに資することを確認する。 講義を振り返り、男女平等や多様な性の尊重がまちづくりの推進の一助となることを理解する。
11 回	学習内容 予習 復習	「地域総がかりで子どもを育てる」 地域学校協働活動とコミュニティ・スクール(CS) 文部科学省が推進する地域学校協働活動とCSについて、事前に確認しておくこと。 地域学校協働活動やCSが推進されている理由とその実践事例について説明できるようにする。
12 回	学習内容 予習 復習	まちづくりと広報、情報化の課題 情報を発信する手段・方法にはどのようなものがあるか事前に調べておくこと。 講義を振り返り、魅力ある広報や情報発信の効果・有用性などについて理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	自治基本条例(まちづくり基本条例)と行政計画 事前に配布する自治基本条例の中から、関心のある事項を1つ以上選んで通読しておくこと。 講義を振り返り、自治体基本条例や各行政計画について、概略を説明できるようにする。
14 回	学習内容 予習 復習	まちづくりの「失敗学」 まちづくりが成功しなかった事例を調べ、その理由や背景について自身の考えをまとめておく。 講義を振り返り、まちづくりが成功しなかった事例を通して、改善点と新たな提案について考える。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括 ―パートナーシップと「場所の力」 これまでの講義を振り返り、可能な限り近接する講義や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心や社会生活上の課題に接続させ今後の学びを発展させていくこと。

科 目 名	循環型社会論				科目コード	SA316	
英 文 名	Circulatory Society				科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	山崎 寿美子			教員コード	147	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜 日・時 限		木曜日/2時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う				4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する			○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	資源の枯渇、環境汚染、気候変動などの問題が生じている今日、これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会を見直して、新たな資源の消費を抑え、廃棄物を資源として再利用するといった循環型の社会のあり方が模索されている。本授業では、こうしたテーマについて講義するとともに、四街道市の活動団体などに調査も実施する。						
授業の狙い・ 到達目標	環境に対して意識を持ち、生活環境問題・地球環境問題に関する学びを通して、何がどのように問題かを考える力を養っていく。環境配慮型製品の普及や、資源や廃棄物の利用法などについて学び、持続可能な社会への施策を考えられるようになる。						
授業内容の レベル・関連科目	新聞などが読める日本語力・読解力や、聞き取り調査などに必要なコミュニケーション能力を必要とする。(関連科目)地域ブランド論、文化人類学、社会調査法						
授業外学習 (予習・復習)	授業前に配布するレジュメや資料を読んでくること。授業後は、レジュメを文章にまとめた上で、課題に取り組むこと。また、調査に際して事前に情報を調べたり、調査後にデータを整理するなどの、積極的な姿勢が不可欠である。					授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし						
参考書・ その他教材	養父 志乃夫『里地里山文化論〈上〉循環型社会の基層と形成』農山漁村文化協会、2009年。養父 志乃夫『里地里山文化論〈下〉循環型社会の暮らしと生態系』農山漁村文化協会、2009年。山口未花子2014『ヘラジカの贈り物ー北方狩猟民カスカと動物の自然誌』春風社。						
課題に対する フィードバック	各回に出した課題については、翌週の授業でコメントをする。						
成績評価方法	レポートなどの課題(50%)、フィールドワークを含む授業への積極的な参加(50%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	フィールドワークを実施することが複数回ある。本科目を履修するには、「文化人類学」も合わせて受講すること。また、前期に「社会調査法」および「地域ブランド論」を受講していることが望ましい。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし						
担当教員への 連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション—授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	循環型の考え方—大量生産・大量消費・大量廃棄型からの移行 事前に配布する資料を読んでおくこと。 講義の要点をまとめて理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	江戸の暮らしに学ぶ循環型社会①循環とは何か 事前に配布する資料を読んでおくこと。 講義の要点をまとめて、ディスカッションに備えること。
4 回	学習内容 予習 復習	江戸の暮らしに学ぶ循環型社会②具体例から学ぶ 事前に配布する資料を読んでおくこと。 講義の要点をまとめて、ディスカッションに備えること。
5 回	学習内容 予習 復習	江戸の暮らしに学ぶ循環型社会③ディスカッション 資料を見直し、講義の内容に関して、意見をまとめ、ディスカッションの準備をすること。 他の受講者の意見を受けて、レポートにまとめて提出すること。
6 回	学習内容 予習 復習	四街道市での実習①循環型社会へ向けた取り組みを行なう団体などへの聞き取り調査 これまでの授業をふまえて、質問項目を考えてくること。 聞き取りで得られたデータをまとめておくこと。
7 回	学習内容 予習 復習	四街道市での実習②結果の報告 データを整理して、報告できるよう準備をすること。 他の受講生の報告を受けて、何がポイントであったか、要点をまとめておくこと。
8 回	学習内容 予習 復習	循環型製品の普及①身近な道具・物から循環型製品について考える 事前に配布する資料を読んでおくこと。 各自で出身地や他国の事例を調べておくこと。
9 回	学習内容 予習 復習	循環型製品の普及②事例報告 報告できるように、出身地や他国の事例についてまとめて準備すること。 他の受講者の意見を受けて、レポートにまとめて提出すること。
10 回	学習内容 予習 復習	プラスチックと環境問題①資料を読む 事前に配布する資料を読んでおくこと。 各自で出身地や他国の事例を調べておくこと。
11 回	学習内容 予習 復習	プラスチックと環境問題①事例報告 報告できるように、出身地や他国の事例についてまとめて準備すること。 他の受講者の意見を受けて、レポートにまとめて提出すること。
12 回	学習内容 予習 復習	四街道市での実習③環境問題に取り組む団体への調査 これまでの授業をふまえて、質問項目を考えてくること。 聞き取りで得られたデータをまとめておくこと。
13 回	学習内容 予習 復習	四街道市での実習④結果の報告 データを整理して、報告できるよう準備をすること。 他の受講生の報告を受けて、何がポイントであったか、要点をまとめておくこと。
14 回	学習内容 予習 復習	四街道市での実習⑤ディスカッション 整理した要点に基づいて、自分の意見が述べられるよう準備すること。 授業でのディスカッションを受けて、レポートを提出すること。
15 回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめを行なう。 配布資料を読み返し、全ての回の授業内容を振り返っておくこと。 全体を振り返り、授業の論点をまとめておく。

科 目 名	移民政策論			科目コード	SA319	
英 文 名	Immigration Policies			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(必修)	
担当教員	栗林 慶		教員コード	158	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日/3時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する			6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	グローバル化とヒトの国際移動をキーワードに、移民政策について考える。前半は、グローバル化によって変わる政治経済と移民政策における各課題について学ぶ。後半は世界各地のエスニック集団の事例について紹介する。					
授業の狙い・ 到達目標	①現代社会の政治を理解する手がかりとして、グローバル化の概念をヒトの国際移動の観点から説明することができる。 ②現代の移民政策についての基本的な論点をおさえ、日本の地域社会における望ましい共生のあり方や問題点を述べられるようになる。					
授業内容の レベル・関連科目	必要となる前提知識や履修科目は設定しない。					
授業外学習 (予習・復習)	日頃からニュースや新聞などに目を通し、グローバル化現象や、外国人コミュニティに関して関連知識を得ること。授業内課題の準備として、講義の内容はよく復習し、不明な用語は調べておくこと。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし					
参考書・ その他教材	講義で使用したものについては、適宜紹介する。					
課題に対する フィードバック	提出課題については、各自の答案を評価し、次週以降に返却する。また、適宜、補足説明やコメントを付記する。					
成績評価方法	平常点(30%) 授業内課題(40%) 定期試験(30%) 平常点は、授業への参加意欲、授業への貢献、グループワークにおける周囲との共同・協調を評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	より発展的な内容を学びたい場合は、参考図書等を案内する。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 移民政策論の視点 シラバスを読み、授業内容について確認しておく。 授業内容と進め方について、確認しておく。
2 回	学習内容 予習 復習	国家、国民、民族 国家や国民、民族といった用語を調べ、理解しておく。 講義で説明された用語の概念を復習し、説明できるようにする。
3 回	学習内容 予習 復習	グローバル化の進展 ヒト・モノ・カネの国際移動 グローバル経済や国際政治に関するニュース・新聞記事を読んでおく。 講義の内容をふまえて予習の内容を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	移民とは① 国家の成立やグローバル化の進展について振り返っておく。 講義をふりかえり、説明された用語の概念を復習し説明できるようにする。
5 回	学習内容 予習 復習	移民とは② 前回の内容を復習し、不明な点は調べておく。 第4～5回の内容を振り返り、知識を定着させる。
6 回	学習内容 予習 復習	移民の移動 移民政策に関するニュース・新聞記事を探し、事例を確認しておく。 講義をふりかえり、適切な移民政策のあり方について考える。
7 回	学習内容 予習 復習	移民政策 多文化共生・教育・福祉 移民政策に関するニュース・新聞記事を探し、事例を確認しておく。 講義をふりかえり、適切な移民政策のあり方について考える。
8 回	学習内容 予習 復習	日常の中の異文化交流 普段の生活において生じる異文化理解の必要性について、あらかじめ考えておく。 講義の内容をふまえて、自身の異文化理解の態度について再考する。
9 回	学習内容 予習 復習	ビジネスにおける異文化理解力 企業等において生じる異文化理解の必要性について、あらかじめ考えておく。 講義の内容をふまえて、自身の異文化理解の態度について再考する。
10 回	学習内容 予習 復習	海外の日系人社会 日本から海外への移住の歴史について調べておく。 日本人の海外移住の歴史を、近年のアジアの国々の動向と比較しながら復習する。
11 回	学習内容 予習 復習	北米のエスニック社会 アメリカとカナダの移民政策について、概略を調べておく。 北米の中国系移民とその他とを比較し、北米のエスニック社会の理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	ヨーロッパのエスニック社会 EUや周辺諸国で生じている移民問題について調べておく。 EUの移民問題と北米の移民問題との違いを考える。
13 回	学習内容 予習 復習	世界のチャイナタウンと日本の華人社会 チャイナタウンがどのような国や地域でみられるかを調べておく。 中国系移民がどのように現地に適応しているか考える。
14 回	学習内容 予習 復習	日本のコリアン人社会 日本のコリアン社会の歴史について、概要を調べておく。 コリアン社会と日本文化の相互の影響について、サブカルチャーなどを切り口に考察を深める。
15 回	学習内容 予習 復習	講義のふりかえり 各回の資料を読み返し、授業内容を振り返っておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。

科 目 名	多文化共生社会論			科目コード	SA317	
英 文 名	Inclusive Society of Various Cultures			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	吉元 菜々子		教員コード	165	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	異なる他者との共存は、グローバリゼーションの進展とともにますます大きな問題となっている。この授業では他民族・多文化社会を理解するための基礎的な知識を習得するとともに、特定の人びとが社会的に排除される仕組みについて考えていく。					
授業の狙い・ 到達目標	他者との差異を優劣で判断する発想を離れ、自他の差異を尊重し自らの視野を広げる姿勢を身につけることができる。また、社会的排除の背後に潜む権力関係や仕組みを理解することで、多文化共生の問題について主体的に考えることができるようになる。					
授業内容の レベル・関連科目	他者理解への関心や意欲が必要である。多文化共生に対する理解を深めるため、「移民政策論」、「地域文化と共生」の履修を推奨する。					
授業外学習 (予習・復習)	事前に授業計画を確認し、各回のトピックについて自分なりに調べるなどの予習をすること。また復習として、授業後は配布資料や自分で作成したノートをもとに授業内容を振り返ること。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書は使用しない。必要に応じて授業内で資料を配布する。					
参考書・ その他教材	高山陽子(編)(2022)『フォビアがいっぱい——多文化共生社会を生きるために』春風社					
課題に対する フィードバック	授業内で前回の授業のリアクションペーパーを適宜紹介し、質問への回答やフィードバックを行う。					
成績評価方法	平常点(40%)、レポート(60%)により評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	日ごろから授業に関連するニュースを意識し、調べる習慣をつけること。 授業計画は、受講生の理解度や要望に応じて若干の変更を加える場合がある。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし。					
担当教員への 連絡方法	質問等はメール(yoshimoto@aikoku-u.org)にて受け付ける。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション——「共生」とはなにか シラバスを読み、授業の概要と目的について理解をしておくこと。 授業の目的を理解し、今後の授業計画について確認すること。
2 回	学習内容 予習 復習	「文化」と文化相対主義 自分の一日の生活を振り返り、その中で「文化的」だと思ふ事柄について考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	グローバリゼーションと世界 「グローバリゼーション」という言葉の意味について調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
4 回	学習内容 予習 復習	グローバリゼーションとローカル社会 海外から日本に伝わった食べ物にはどのようなものがあるかについて調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
5 回	学習内容 予習 復習	人種と民族 人種差別にはどのようなものがあるかについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
6 回	学習内容 予習 復習	国民国家とナショナリズム 「ナショナリズム」という言葉の意味について調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
7 回	学習内容 予習 復習	日本人と「我々」 日本人の要件とは何かについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
8 回	学習内容 予習 復習	外国人と移民 海外に移住するとしたらどこに住みたいかについて、その理由とともにまとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
9 回	学習内容 予習 復習	難民と歓待 難民と呼ばれる人びとは世界にどれくらいいるのかについて調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
10 回	学習内容 予習 復習	先住民と権利 先住民という言葉の意味について調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
11 回	学習内容 予習 復習	宗教とイデオロギー 世界にはどのような宗教があるかについて調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
12 回	学習内容 予習 復習	ジェンダーと身体 ジェンダーによる差別には何があるかについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
13 回	学習内容 予習 復習	貧困とホームレス 現在、日本にホームレス状態の人はどれくらいいるかについて調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
14 回	学習内容 予習 復習	老いと装い 年を取ることの良い側面と悪い側面について考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ——「共にいる」ということ これまでの授業で配布したレジュメを振り返り、不明点や疑問点を明確にしておくこと。 これまでの授業を振り返り、受講内容について理解を深めること。

科 目 名	地域共生演習Ⅰ				科目コード	SA321	
英 文 名	Studies of Inclusive SocietyⅠ				科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	栗林 慶		教員コード	158		単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日/2時限		授業形態	演習	
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	この授業では、GIS(地理情報システム Geographic Information System)を取り扱う。GISソフトウェアの基本操作となる地図の表示や計測機能と、地理空間情報の分析方法について学ぶ。						
授業の狙い・ 到達目標	① GISの基本的な概念を理解し、説明することができる。 ② GISソフト「MANDARA」の基本操作を習得し、主題図の作成ができるようになる。 ③ 空間データをもとに、地理空間情報の分析ができるようになる。						
授業内容の レベル・関連科目	必要となる前提知識は設定しない。 地域共生演習Ⅱを合わせて履修することで、空間をとらえ、表現する能力を養うことができる。						
授業外学習 (予習・復習)	習った内容は繰り返し確認し、授業内容と同様のソフトウェア操作は独力で行えるように練習しておくこと。また、その際は、別のデータを用意してソフトウェアに入力してみるなどして、操作だけでなくその出力結果も意識しながら復習をすること。					授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし						
参考書・ その他教材	授業内で適宜案内する。						
課題に対する フィードバック	各回の演習やプレゼンテーションについては、随時フィードバックを行う。						
成績評価方法	平常点(50%)、演習成果(50%) 平常点は、授業への参加意欲、授業への貢献、グループワークにおける周囲との共同・協調を評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	受講人数や進度により、演習内容を変更する場合がある。 PCの基本操作(アカウントへのログイン、ファイルの保存、メールの送信等)や、オフィスソフト(Word、Excel、PowerPoint等)の操作については、授業内では案内しないので注意されたい。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし						
担当教員への 連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。						

授業スケジュール

地域共生演習 I

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション シラバスを読み、授業内容について理解する。 授業の目的や内容、進め方について確認する。
2 回	学習内容 予習 復習	GISとは 近年、GISがどのように用いられているか、調べておく。 授業で紹介した内容と予習時に調べた内容を合わせて、GISの重要性について再確認しておく。
3 回	学習内容 予習 復習	様々なGISソフト GISの基本的な概念について復習しておく。 演習で操作した様々なツールについて、各々の特徴や利点を再確認しておく。
4 回	学習内容 予習 復習	MANDARAのダウンロードと基本操作 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
5 回	学習内容 予習 復習	付属地図ファイルを使用した白地図の作成 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
6 回	学習内容 予習 復習	都道府県別・市区町村別の統計地図の作成 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
7 回	学習内容 予習 復習	国土数値情報を用いた地図の作成 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
8 回	学習内容 予習 復習	ジオコーディングによる分布図の作成 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
9 回	学習内容 予習 復習	メッシュデータの地図化 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
10 回	学習内容 予習 復習	国勢調査の小地域データを地図化する 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
11 回	学習内容 予習 復習	立地分析① 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
12 回	学習内容 予習 復習	立地分析② 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
13 回	学習内容 予習 復習	地域データの収集&プレゼンテーションファイルの作成 どのような主題図を作成したいか、あらかじめ想定し、データを準備しておく。 出力した地図について、指摘された箇所を修正する。
14 回	学習内容 予習 復習	各班のプレゼンテーション① これまでの授業内容を復習し、GISの操作方法や主題図の作成方法について再確認する。 提出した課題について、授業の該当箇所を復習し、自己の答案を振り返る。
15 回	学習内容 予習 復習	各班のプレゼンテーション② これまでの授業内容を復習し、GISの操作方法や主題図の作成方法について再確認する。 提出した課題について、授業の該当箇所を復習し、自己の答案を振り返る。

科 目 名	地域共生演習Ⅱ				科目コード	SA322	
英 文 名	Studies of Inclusive Society Ⅱ				科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	栗林 慶			教員コード	158	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜 日・時 限		火曜日/2時限		授 業 形 態	演習
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	測量は古代から現在に至るまで変わらずに重要であり続ける技術の一つであり、その応用分野は幅広い。この授業では、教養として知っておくべき地図と測量の知識について案内しつつ、演習として実際に様々な方法を用いた測量を行う。						
授業の狙い・ 到達目標	① 測量に関する歴史や応用分野など、基本的な知識について説明することができる。 ② 測量の原理を理解し、正確な測定のための技術を実践できる。 ③ 授業で学んだ方法をもって、簡易な測量を計画し、実行することができる。						
授業内容の レベル・関連科目	高校初歩レベルの数学の知識が必要となる。 空間をとらえ、表現する能力を養うために、地域共生演習Ⅰを合わせて履修することが望ましい。						
授業外学習 (予習・復習)	測量は知識であり技能でもあることから、自身による反復の予習・復習が欠かせないことに注意されたい。また、測量機材の取り扱いについては、授業時間中に細かなメモを作成するなどし、よく予習・復習をしておくこと。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	特になし						
参考書・ その他教材	授業内で適宜案内する。						
課題に対する フィードバック	各回の演習やプレゼンテーションについては、随時フィードバックを行う。						
成績評価方法	平常点(50%)、演習成果(50%) 平常点は、授業への参加意欲、授業への貢献、グループワークにおける周囲との共同・協調を評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	受講人数や天候等により、演習内容に調整を加える場合がある。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし						
担当教員への 連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション ～地図と測量～ シラバスを読み、授業内容について理解しておくこと。 授業の目的や内容、進め方について確認しておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	測量法、測量の種類、測量技術の進歩 身の回りでどのように測量が用いられているかを調査しておくこと。 授業内で紹介された測量の応用分野や最新技術について、調査を行うこと。
3 回	学習内容 予習 復習	測量で用いる計算① 単位と測量数学 高校数学を復習しておくこと。 授業で学んだ計算方法について、数値を変えるなどして自分でも繰り返し計算をしてみること。
4 回	学習内容 予習 復習	測量で用いる計算② 誤差と最確値 高校数学を復習しておくこと。 授業で学んだ計算方法について、数値を変えるなどして自分でも繰り返し計算をしてみること。
5 回	学習内容 予習 復習	距離を測る① 距離を計測する様々な方法について、あらかじめ調べておくこと。 実際に計測をしてみた結果を振り返り、第3回・第4回で学んだ内容と合わせて検討しておくこと。
6 回	学習内容 予習 復習	距離を測る② 前回到測定した結果と手順をよく振り返っておくこと。 前回学んだ内容と合わせて、測量の手順、方法をよく復習しておくこと。
7 回	学習内容 予習 復習	土地の高低を測る① 土地の高低のデータが必要とされる場合はどのようなときか、調べておくこと。 実際に計測をしてみた結果を振り返り、第3回・第4回で学んだ内容と合わせて検討しておくこと。
8 回	学習内容 予習 復習	土地の高低を測る② 前回到測定した結果と手順をよく振り返っておくこと。 前回学んだ内容と合わせて、測量の手順、方法をよく復習しておくこと。
9 回	学習内容 予習 復習	水平の角度を測る① 第1回と第2回の内容を中心に、角度と測量の関係について振り返っておくこと。 実際に計測をしてみた結果を振り返り、第3回・第4回で学んだ内容と合わせて検討しておくこと。
10 回	学習内容 予習 復習	水平の角度を測る② 前回到測定した結果と手順をよく振り返っておくこと。 前回学んだ内容と合わせて、測量の手順、方法をよく復習しておくこと。
11 回	学習内容 予習 復習	トータルステーションを用いた測量 第5回～第10回までの内容を重点的に復習しておくこと。 トータルステーションで計測する場合の注意点について、復習しておくこと。
12 回	学習内容 予習 復習	面積を測る 高校数学を復習しておくこと。 第3回・第4回の内容と、第5回から第12回までの内容とを関連付け、復習しておくこと。
13 回	学習内容 予習 復習	班別の測量(準備) 計画書の作成 これまで学んだ内容から、どのような測量が可能か、あらかじめ考えておくこと。 次回以降行う班別の測量の、役割分担や手順について班員とよく話し合うこと。
14 回	学習内容 予習 復習	班別の測量① 提出した測量の計画書を振り返り、測定の手順や機材の取り扱いを予習しておくこと。 測定が計画通り行われたかを振り返ること。
15 回	学習内容 予習 復習	班別の測量② 提出した測量の計画書を振り返り、測定の手順や機材の取り扱いを予習しておくこと。 測定が計画通り行われたかを振り返ること。

科 目 名	地域共生フィールドワーク実習			科目コード	SA323	
英 文 名	Fieldwork of Inclusive Society			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(必修)	
担当教員	山崎 寿美子／中村 塑		教員コード	147／138	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日/1時限		授業形態	実習
学位授与方針 との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	教員の指導のもとでフィールドワークのテーマを決め、実際に地域に出かけて調査を行う。最後に調査結果をまとめ発表を行う。対象地域は千葉県内を予定している。					
授業の狙い・ 到達目標	実習を通して、調査方法、データの分析方法、プレゼンテーションの仕方などを身につけることができる。また実習での経験を通して、フィールドワークの意義を学びながら、次年度の卒業研究に役立てる。					
授業内容の レベル・関連科目	大学生の学修としては応用レベルである。 関連科目：地域共生専攻のすべての科目					
授業外学習 (予習・復習)	授業スケジュール記載の予習と復習に取り組むこと。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし					
参考書・ その他教材	特になし					
課題に対する フィードバック	授業の中で随時コメントをする。					
成績評価方法	実習態度(60%)、報告書等の作成(20%)、プレゼンテーション(20%)					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	実習の性格上、地域の方々と関わる機会が多いため、積極性と協調性は欠かせない。また時間を守り、欠席する際は必ず事前に担当教員に連絡をすること。授業スケジュールは実習地側の事情を最優先させるため、変更することもある。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org(中村)、yamazaki@aikoku-u.org(山崎)					

授業スケジュール

地域共生フィールドワーク実習

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2 回	学習内容 予習 復習	テーマの選定① テーマについて、自らの考えを整理しておくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
3 回	学習内容 予習 復習	テーマの選定② テーマについて、自らの考えを整理しておくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
4 回	学習内容 予習 復習	実習地について調べる①(歴史・自然・生活環境) 調べるための資料を集めてくること 教員や他の受講生の意見を踏まえて、資料収集と分析を進めること
5 回	学習内容 予習 復習	実習地について調べる②(産業・文化) 調べるための資料を集めてくること 教員や他の受講生の意見を踏まえて、資料収集と分析を進めること
6 回	学習内容 予習 復習	調査① 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
7 回	学習内容 予習 復習	調査② 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
8 回	学習内容 予習 復習	調査③ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
9 回	学習内容 予習 復習	調査④ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
10 回	学習内容 予習 復習	中間報告 これまでの調査を振り返ること 課題点を整理し、次に何を調査するかを検討すること
11 回	学習内容 予習 復習	調査⑤ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
12 回	学習内容 予習 復習	調査⑥ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
13 回	学習内容 予習 復習	調査⑦ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
14 回	学習内容 予習 復習	調査⑧ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
15 回	学習内容 予習 復習	報告会 これまで得られたデータを、発表できるようにまとめること 教員や他の受講生の意見をふまえて、報告書にまとめ、提出すること

科 目 名	ビジネス情報学				科目コード	SC439	
英 文 名	Information Systems in Business				科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻(必修)	
担当教員	大屋 伸彦		教員コード	161		単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日/1時限		授業形態	講義	
学位授与方針 との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	本講義は変化の激しい情報化社会に対応するために必要な情報リテラシーとデータサイエンスの基礎を身につけることを目的とする。						
授業の狙い・ 到達目標	ビッグデータとは何かを理解し、ビジネスにおけるデータ利活用の意義を説明できるようになること。 AI・データサイエンスがビジネスにどのように役立つのかを説明できるようになること。						
授業内容の レベル・関連科目	前提知識は必須ではないが、併せてベンチャービジネス論、経営管理論を履修することが望ましい。						
授業外学習 (予習・復習)	復習を重視する。 不明な点や疑問点があれば次講義までに解決しておくこと。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	教員が資料を配布する予定。						
参考書・ その他教材	講義内で必要となった場合に指示する。						
課題に対する フィードバック	課題に対しては最終講義にフィードバックを行う。						
成績評価方法	期末試験(40%)、授業内レポート・演習(40%)、授業への取り組み(20%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	「単位を取ること」が目標ではなく、学んだことを社会に出たときに活かすことができるよう、主体性をもって取り組むことが求められる。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし						
担当教員への 連絡方法	メールでの質問(ohya@aikoku-u.org)またはオフィスアワー(初回講義時にアナウンスする)。メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

授業スケジュール

ビジネス情報学

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(講義の進め方)、社会で起きている変化 シラバスを読んでおくこと 講義の目的を理解しておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	社会で活用されているデータ 世の中にあるデータにはどんなものがあるのか考えておくこと なぜ情報が必要なのか理解しておくこと
3 回	学習内容 予習 復習	データとAIの活用領域①マーケティング マーケティングにおけるデータ活用の事例を調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
4 回	学習内容 予習 復習	データとAIの活用領域②製造業等 社会で活用されているIoTについて調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
5 回	学習内容 予習 復習	データ・AI利活用のための技術①予測と分類 データサイエンスにおける予測と分類の意味を調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
6 回	学習内容 予習 復習	データ・AI利活用のための技術②非構造化データ処理 構造化データと非構造化データの違いについて調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	データ・AI活用の現場 DX(デジタルトランスフォーメーション)について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	データ・AI利活用の最新動向①機械翻訳 機械翻訳について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
9 回	学習内容 予習 復習	データ・AI利活用の最新動向②機械学習 機械学習について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
10 回	学習内容 予習 復習	演習①データを読む エクセル操作を確認しておくこと 演習での不明な点は次の演習までに解決しておくこと
11 回	学習内容 予習 復習	演習②データを説明する エクセル操作を確認しておくこと 演習での不明な点は次の演習までに解決しておくこと
12 回	学習内容 予習 復習	演習③データを扱う エクセル操作を確認しておくこと 演習での不明な点は次の演習までに解決しておくこと
13 回	学習内容 予習 復習	データ・AIを扱う上での留意事項 個人情報保護、AI倫理について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
14 回	学習内容 予習 復習	データを守る上での留意事項 情報セキュリティについて調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	全体のまとめと期末試験の説明 1回から14回までの授業内容を復習しておくこと 全15回の授業内容を振り返って理解を深めておくこと

科目名	プログラミング応用			科目コード	SA424	
英 文 名	Advanced Programming			科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻(選択)	
担当教員	大屋 伸彦		教員コード	161	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日/1時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける	◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	HTML/JavaScriptを使って簡単なゲームを作成する。					
授業の狙い・ 到達目標	自身の手で作成することにより、プログラム言語をより身近に感じ、理解を深めることができる。 簡単なゲームを作成することができるようになる。					
授業内容の レベル・関連科目	HTML/CSSの知識が前提となるため、プログラミング基礎、WEBデザイン演習を履修することが望ましい。					
授業外学習 (予習・復習)	特に復習を重視する。PCの扱いに慣れておくこと。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	資料を配布する予定。					
参考書・ その他教材	HTMLの解説書を読んでおくことを推奨する。					
課題に対する フィードバック	演習に対するフィードバックを講義内で行う。					
成績評価方法	授業内演習(80%)、授業への取り組み(20%)					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	演習を行うため、Googleアカウントの操作は必須。 演習の進捗によっては内容を変更する場合がある。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	メールでの質問(ohya@aikoku-u.org)またはオフィスアワー(初回講義時にアナウンスする)。メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(講義の進め方、PC操作の確認等) シラバスを読んでおくこと 講義の目的を理解しておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	HTML,CSSの復習 WEBページ基本 HTML,CSSの各言語についての基本タグを調べておくこと。 簡単なWEBページを作れるようになること。
3 回	学習内容 予習 復習	レスポンシブデザインレイアウト/デベロッパーツールの説明 WEBページの構造を確認しておくこと。 授業で説明した内容を振り返っておくこと
4 回	学習内容 予習 復習	レスポンシブデザインレイアウトのカスタマイズ WEBページの構造を確認しておくこと。 授業で説明した内容を振り返っておくこと
5 回	学習内容 予習 復習	JavaScript ゲーム1(作成) HTML, Javascriptを記述できるようにしておくこと。 課題のプログラム作成を進めておく。
6 回	学習内容 予習 復習	JavaScript ゲーム1(作成) 課題のプログラム作成を進めておく。 課題のプログラム作成を進めておく。
7 回	学習内容 予習 復習	JavaScript ゲーム1(カスタマイズ) 課題のプログラム作成を進めておく。 プログラムを変更することでオブジェクトの動きがどのように変化するのかを確認すること。
8 回	学習内容 予習 復習	JavaScript ゲーム2(作成) HTML, Javascriptを記述できるようにしておくこと。 課題のプログラム作成を進めておく。
9 回	学習内容 予習 復習	JavaScript ゲーム2(作成) 課題のプログラム作成を進めておく。 課題のプログラム作成を進めておく。
10 回	学習内容 予習 復習	JavaScript ゲーム2(作成) 課題のプログラム作成を進めておく。 課題のプログラム作成を進めておく。
11 回	学習内容 予習 復習	JavaScript ゲーム2(カスタマイズ) 課題のプログラム作成を進めておく。 プログラムを変更することでオブジェクトの動きがどのように変化するのかを確認すること。
12 回	学習内容 予習 復習	JavaScript ゲーム3(作成) HTML, Javascriptを記述できるようにしておくこと。 課題のプログラム作成を進めておく。
13 回	学習内容 予習 復習	JavaScript ゲーム3(作成) 課題のプログラム作成を進めておく。 課題のプログラム作成を進めておく。
14 回	学習内容 予習 復習	JavaScript ゲーム3(作成) 課題のプログラム作成を進めておく。 課題のプログラム作成を進めておく。
15 回	学習内容 予習 復習	JavaScript ゲーム3(カスタマイズ) 課題のプログラム作成を進めておく。 プログラムを変更することでオブジェクトの動きがどのように変化するのかを確認すること。

科 目 名	情報資格演習				科目コード	SA425	
英 文 名	Practice for Information Qualification				科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻(必修)	
担当教員	日坂 彰		教員コード	137		単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日・1時限		授業形態	演習	
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	ITパスポートとは社会人・学生が備えておくべき情報技術に関する基礎的な知識を証明する国家資格であり、同試験に合格できる水準の到達を目指す。						
授業の狙い・ 到達目標	ITパスポート試験に合格できる水準に到達できる。同時に、更に上位の情報処理技術者試験(基本情報技術者試験など)に合格できるように必要な基礎事項を習得できる。						
授業内容の レベル・関連科目	ITSS(ITスキル標準)のレベル1、国際情報ビジネスコース及びビジネス専攻の経営、会計、情報全分野の科目が関連する						
授業外学習 (予習・復習)	予習は資料を読み、用語を辞典、事典で調べておくこと。 復習は学習内容を定着させ、未理解事項を残さないこと。 各回に特化した予習、復習は授業スケジュールを参照のこと。					授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	富士通エフ・オー・エム株式会社「ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集(よくわかるマスター)」FOM出版 ※最新版を入手すること						
参考書・ その他教材	経営、会計、情報全分野の基本書全般						
課題に対する フィードバック	分野別スコアの記録によって、得意分野と苦手分野のフィードバックを行う。						
成績評価方法	問題演習(70%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	使用教科書は試験対策書である性格上、毎年異なる版が出版されるため、過年度の中古書は避けること。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし						
担当教員への 連絡方法	本学 Google Workspace for Education Gmail:anissaka@aikoku-u.org						

1 回	学習内容 予習 復習	資格試験の概要、傾向と対策 — ITパスポート試験の概要、傾向と対策、学習方法ノウハウ 教科書の「試験の概要」を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 ITパスポート試験を受ける計画(学習計画、受験時期等)を立てること。
2 回	学習内容 予習 復習	ストラテジ系 (1) 企業と法務 教科書の第1章を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の該当章末「予想問題」を解いて、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
3 回	学習内容 予習 復習	ストラテジ系 (2) 経営戦略 教科書の第2章を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の該当章末「予想問題」を解いて、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	ストラテジ系 (3) システム戦略 教科書の第3章を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の該当章末「予想問題」を解いて、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	ストラテジ系総合演習 教科書の第1章から第3章までの復習を行い、同分野での未理解事項を残さないこと。 過去問題プログラムのストラテジ系において、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	マネジメント系 (1) 開発技術 教科書の第4章を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の該当章末「予想問題」を解いて、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	マネジメント系 (2) プロジェクトマネジメント 教科書の第5章を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の該当章末「予想問題」を解いて、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	マネジメント系 (3) サービスマネジメント 教科書の第6章を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の該当章末「予想問題」を解いて、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	マネジメント系総合演習 教科書の第4章から第6章までの復習を行い、同分野での未理解事項を残さないこと。 過去問題プログラムのマネジメント系において、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	テクノロジ系 (1) 基礎理論 教科書の第7章を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の該当章末「予想問題」を解いて、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	テクノロジ系 (2) コンピュータシステム 教科書の第8章を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の該当章末「予想問題」を解いて、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	テクノロジ系 (3) 技術要素 教科書の第9章を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の該当章末「予想問題」を解いて、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	テクノロジ系 (4) 表計算 教科書の第10章を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の該当章末「予想問題」を解いて、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	テクノロジ系総合演習 教科書の第7章から第10章までの復習を行い、同分野での未理解事項を残さないこと。 過去問題プログラムのテクノロジ系において、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
15 回	学習内容 予習 復習	全体総合演習 教科書の第1章から第10章までの復習を行い、未理解事項を残さないこと。 過去問題プログラム(全体)において、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。

科 目 名	WEBデザイン演習				科目コード	SA426	
英 文 名	Practice of Website Design				科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻(選択)	
担当教員	日坂 彰		教員コード	137		単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・4時限		授業形態	演習	
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	Webサイト(ホームページ)、電子商取引サイトおよびブログなどの基盤技術であるHTMLやCSSを習得し、それらの技術を用いてWebページを作成する演習である。						
授業の狙い・ 到達目標	HTMLを用いて基本的なWebページ(ホームページ)を作成できる。 基本的なWebデザインを、Webページ(ホームページ)に反映できる。 コンテンツの構成要素となる各種ファイル形式と特徴を理解できる。						
授業内容の レベル・関連科目	Webデザインの基礎／「情報科学概論」						
授業外学習 (予習・復習)	予習は資料を読み、用語を辞典、事典で調べておくこと。 復習は学習内容を定着させ、未理解事項を残さないこと。 各回に特化した予習、復習は授業スケジュールを参照のこと。					授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	実教出版編修部「30時間でマスター インターネットⅢ HTMLでつくるWebページ」実教出版						
参考書・ その他教材	授業内で適宜紹介する。						
課題に対する フィードバック	各段階毎に成果物を点検、フィードバックを行う。						
成績評価方法	成果物(設計書等)(70%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	本授業は受講人数に上限を設け、受講制限を行う場合がある。本演習の各回は、それ以前の習得内容を前提としている。携帯電話の使用厳禁。遅刻厳禁。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし						
担当教員への 連絡方法	本学 Google Workspace for Education Gmail:anissaka@aikoku-u.org						

1 回	学習内容 予習 復習	インターネットとWebページ — インターネットとWebページのしくみ シラバスを熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 普段どれだけインターネットやWebページを利用しているかをまとめること。
2 回	学習内容 予習 復習	Webページ作成技術 (1) — HTMLの基礎、ファイル形式、拡張子 HTMLの基礎等の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 自分が日常的に使うファイルのファイル形式について調査し、まとめること。
3 回	学習内容 予習 復習	Webページ作成技術 (2) — 作成ソフトの利用方法、テキストエディタ テキストエディタの指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 テキストエディタ(メモ帳)の基本的な使い方を習得すること。
4 回	学習内容 予習 復習	Webページ作成技術 (3) — 基本的なHTMLタグ 基本的なHTMLタグの指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 基本的なHTMLタグに関する指定の応用課題を解くこと。
5 回	学習内容 予習 復習	Webページ作成技術 (4) — ハイパーリンク ハイパーリンクの指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 ハイパーリンクに関する指定の応用課題を解くこと。
6 回	学習内容 予習 復習	Webページ作成技術 (5) — イメージの表示、イメージファイル形式 イメージファイルの指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 イメージの表示に関する指定の応用課題を解くこと。
7 回	学習内容 予習 復習	Webページ作成技術 (6) — リスト リストの指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 リストに関する指定の応用課題を解くこと。
8 回	学習内容 予習 復習	Webページ作成技術 (7) — テーブル(表) テーブルの指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 テーブルに関する指定の応用課題を解くこと。
9 回	学習内容 予習 復習	Webデザイン (1) — スタイルシート、CSSの基礎 CSSの基礎の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 指定数以上のWebサイトを閲覧し、どのようにCSSが使われているかを調査すること。
10 回	学習内容 予習 復習	Webデザイン (2) — 色の基礎、配色 色の基礎、配色の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 指定数以上のWebサイトを閲覧し、色の基礎、配色の観点から評価すること。
11 回	学習内容 予習 復習	Webデザイン (3) — デザインの基礎 デザインの基礎の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 指定数以上のWebサイトを閲覧し、デザインの基礎の観点から評価すること。
12 回	学習内容 予習 復習	Webサイト設計演習 (1) — 設計—サイトマップとページレイアウト どのようなWebサイトを作成したいかの基本構想を練ってくること。 サイトマップとページレイアウトを作成すること。
13 回	学習内容 予習 復習	Webサイト設計演習 (2) — 制作 サイトマップとページレイアウトを作成すること。 サイトマップとページレイアウトを作成すること。
14 回	学習内容 予習 復習	Webサイト設計演習 (3) — 修正 サイトマップとページレイアウトを作成すること。 フィードバックへの対応
15 回	学習内容 予習 復習	Webサイト設計演習 (4) — 評価 サイトマップとページレイアウトを作成すること。 フィードバックへの対応

科目名	データベース演習				科目コード	SA427	
英 文 名	Practice of Database Processing				科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻(選択)	
担当教員	大屋 伸彦		教員コード	161		単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日/1時限		授業形態	演習	
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	データベースの概要を理解する。 リレーショナルデータベースの構造を理解する。						
授業の狙い・ 到達目標	テーブル、リレーションシップ、クエリ、フォーム、レポートの理解と作成を通して、データベースソフトであるAccessを利用できるようになる。						
授業内容の レベル・関連科目	Excelの知識を前提としているため、表計算演習を履修していることが必須。						
授業外学習 (予習・復習)	PCの操作に慣れておくこと。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	必要な資料は配布する予定。						
参考書・ その他教材	Accessの入門書を読んでおくことを推奨する。						
課題に対する フィードバック	最終講義にフィードバックを行う。						
成績評価方法	総合演習(80%)、演習への取り組み(20%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	基本的なPC操作はできるものとしたうえで講義をすすめる。 演習を行うため、Googleアカウントの操作は必須。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし						
担当教員への 連絡方法	メールでの質問(ohya@aikoku-u.org)またはオフィスアワー(初回講義時にアナウンスする)。メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

授業スケジュール

データベース演習

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、PC操作の確認 データベースとはどのようなものかを考えておくこと PCの操作を確認しておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	データベースの作成と設計 PCの操作を確認しておくこと データベースオブジェクトについて理解しておくこと
3 回	学習内容 予習 復習	テーブルの作成 Accessの画面構成を理解しておくこと テーブルの概要を理解し問題なく作成できるようにしておくこと
4 回	学習内容 予習 復習	リレーションシップの設定 前回作成したものを確認しておくこと リレーションシップの概要を理解しておくこと
5 回	学習内容 予習 復習	クエリの作成(1) 集計キー項目の追加① クエリでどんなことができるかを確認しておくこと 作成でできなかったことを進めておくこと
6 回	学習内容 予習 復習	クエリの作成(2) 集計クエリとグラフ化(円グラフ、棒グラフ) 前回作成したものを確認しておくこと 作成でできなかったことを進めておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	クエリの作成(3) リレーションシップを使わないテーブル結合 前回作成したものを確認しておくこと 作成でできなかったことを進めておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	クエリの作成(4) 集計キー項目の追加②取引回数集計 前回作成したものを確認しておくこと 作成でできなかったことを進めておくこと
9 回	学習内容 予習 復習	クエリの作成(4) 集計キー項目の追加②取引金額集計 前回作成したものを確認しておくこと 作成でできなかったことを進めておくこと
10 回	学習内容 予習 復習	クエリの作成(5) 集計クエリとグラフ化(折れ線グラフ) 前回作成したものを確認しておくこと 作成でできなかったことを進めておくこと
11 回	学習内容 予習 復習	クエリの作成(6) 追加クエリ、更新クエリ、削除クエリ 前回作成したものを確認しておくこと 作成でできなかったことを進めておくこと
12 回	学習内容 予習 復習	総合演習(1) 前回作成したものを確認しておくこと 演習でできなかったことを進めておくこと
13 回	学習内容 予習 復習	総合演習(2) 前回作成したものを確認しておくこと 演習でできなかったことを進めておくこと
14 回	学習内容 予習 復習	総合演習(3) 前回作成したものを確認しておくこと 演習でできなかったことを進めておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	演習のフィードバック 演習でできなかったことを進めておくこと Access全般の操作をできるようにすること

科 目 名	画像処理演習			科目コード	SA428	
英 文 名	Practice of Graphic Processing			科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻(必修)	
担当教員	中野 慶昭		教員コード	163	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・4時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	画像処理技術の仕組みを学ぶとともに、画像編集ソフト(PhotoShop)を使用して、画像修正の基本操作を学ぶ。					
授業の狙い・ 到達目標	本演習の到達目標を、以下の3点とする。 ①画像処理の仕組みについて学ぶ ②画像編集ソフト(PhotoShop)の基本操作を身につける ③WordやExcel、PowerPointにて編集画像の利用方法を身につける					
授業内容の レベル・関連科目	画像編集ソフトを初めて利用する者を対象としており、基礎的なレベルである。					
授業外学習 (予習・復習)	予習は、事前に配布資料を読んでおき、内容を理解しておくこと。 復習は、授業内容を振り返り、課題を提出すること。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が資料を配布する予定。					
参考書・ その他教材	・I&D宮川千春、木俣カイ、『これから始めるPhotoShopの本』. 技術評論社 ・まきのゆみ、『PhotoShopしっかり入門』. SBクリエイティブ					
課題に対する フィードバック	毎回課題を出題し、その内容を次回の講義で共有する。					
成績評価方法	①期末演習試験(50%)、②演習課題(40%)、③平常点(10%)により評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	授業後の振り返りを行うこと。実際にPhotoShopを利用した振り返りができればなおよい。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	質問はメールやChatでも受け付ける。 メールの場合は、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

授業スケジュール

画像処理演習

1 回	学習内容 予習 復習	〈イントロダクション〉 講義の概要と進め方を説明する シラバスを読んでおくこと 授業内容を振り返ること
2 回	学習内容 予習 復習	〈画像処理基礎〉 コンピュータ内における画像処理の仕組みを説明する 配布資料を読んでおくこと 授業内容を振り返ること
3 回	学習内容 予習 復習	〈PhotoShop実技演習①〉 画像の取り込み 配布資料を読んでおくこと 授業内容を振り返ること
4 回	学習内容 予習 復習	〈PhotoShop実技演習②〉 画像の修正 配布資料を読んでおくこと 授業内容を振り返ること
5 回	学習内容 予習 復習	〈PhotoShop実技演習③〉 画像の補正 配布資料を読んでおくこと 授業内容を振り返ること
6 回	学習内容 予習 復習	〈PhotoShop実技演習④〉 画像の合成 配布資料を読んでおくこと 授業内容を振り返ること
7 回	学習内容 予習 復習	〈前半のまとめ〉 第2～6回の内容を振り返る 第2～6回の内容を復習してくる 授業内容を振り返ること
8 回	学習内容 予習 復習	〈PhotoShop実技演習⑤〉 レイヤー機能 配布資料を読んでおくこと 授業内容を振り返ること
9 回	学習内容 予習 復習	〈PhotoShop実技演習⑥〉 ペイント機能 配布資料を読んでおくこと 授業内容を振り返ること
10 回	学習内容 予習 復習	〈PhotoShop実技演習⑦〉 文字の入力と編集 配布資料を読んでおくこと 授業内容を振り返ること
11 回	学習内容 予習 復習	〈ソフトウェアでの画像利用①〉 Wordでの画像利用 配布資料を読んでおくこと 授業内容を振り返ること
12 回	学習内容 予習 復習	〈ソフトウェアでの画像利用②〉 Excelでの画像利用 配布資料を読んでおくこと 授業内容を振り返ること
13 回	学習内容 予習 復習	〈ソフトウェアでの画像利用③〉 Power Pointでの画像利用 配布資料を読んでおくこと 授業内容を振り返ること
14 回	学習内容 予習 復習	〈後半のまとめ〉 第8～13回まで内容を振り返りと最終課題の説明 第8～13回の内容を復習しておくこと 本日の授業内容を振り返る
15 回	学習内容 予習 復習	〈全体のまとめ〉 最終課題の完成と提出 第7回、14回を中心に復習しておくこと 全15回の授業内容を振り返り、最終課題を提出する。

科目名	コンピュータ会計演習				科目コード	SA429	
英 文 名	Practice of Computer Accounting				科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻(選択)	
担当教員	大屋 伸彦		教員コード	161		単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日/1時限		授業形態	演習	
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	それぞれの勘定科目を理解し、仕訳を入力できるようにする。 財務諸表や精算表に勘定科目ごとの入力ができるようにする。						
授業の狙い・ 到達目標	コンピュータを使って帳簿記入を行えるようになるために、演習を通じて勘定科目や仕訳について理解できるようになる。						
授業内容の レベル・関連科目	簿記を理解していることを前提に演習を行うため、簿記論および簿記演習を履修済みであることが必須。						
授業外学習 (予習・復習)	PCの操作に慣れておくこと。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	教員が資料を配布する予定。						
参考書・ その他教材	授業で必要となった場合に指示する。						
課題に対する フィードバック	演習については、授業の中で解説する。						
成績評価方法	課題演習(80%)、演習への取り組み(20%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	演習を行うため、Googleアカウントの操作は必須。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし						
担当教員への 連絡方法	メールでの質問(ohya@aikoku-u.org)またはオフィスアワー(初回講義時にアナウンスする)。メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

授業スケジュール

コンピュータ会計演習

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(講義の進め方、PC操作の確認、簿記の復習) シラバスを読んでおくこと 講義の目的を理解しておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	エクセル帳簿での演習① 勘定科目にはどんなものがあるのか確認しておくこと 授業内で行った演習について復習しておくこと
3 回	学習内容 予習 復習	エクセル帳簿での演習② 仕訳の方法を確認しておくこと 授業内で行った演習について復習しておくこと
4 回	学習内容 予習 復習	演習(現金・小口現金・普通預金) 2回、3回で扱った仕訳や勘定科目について理解しているか確認しておくこと 授業内で行った演習について復習しておくこと
5 回	学習内容 予習 復習	演習(仕入れ・買掛金・仮払消費税) 前回扱った仕訳や勘定科目について理解しているか確認しておくこと 授業内で行った演習について復習しておくこと
6 回	学習内容 予習 復習	演習(売掛金・仮受消費税) 前回扱った仕訳や勘定科目について理解しているか確認しておくこと 授業内で行った演習について復習しておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	演習(未払金・クレジット払い) 前回扱った仕訳や勘定科目について理解しているか確認しておくこと 授業内で行った演習について復習しておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	演習(前払金・前受金) 前回扱った仕訳や勘定科目について理解しているか確認しておくこと 授業内で行った演習について復習しておくこと
9 回	学習内容 予習 復習	演習(当座預金) 前回扱った仕訳や勘定科目について理解しているか確認しておくこと 授業内で行った演習について復習しておくこと
10 回	学習内容 予習 復習	演習(約束手形) 前回扱った仕訳や勘定科目について理解しているか確認しておくこと 授業内で行った演習について復習しておくこと
11 回	学習内容 予習 復習	演習(貸付金・借入金) 前回扱った仕訳や勘定科目について理解しているか確認しておくこと 授業内で行った演習について復習しておくこと
12 回	学習内容 予習 復習	演習(未収金) 前回扱った仕訳や勘定科目について理解しているか確認しておくこと 授業内で行った演習について復習しておくこと
13 回	学習内容 予習 復習	演習(仮払金・仮受金・立替払・預り金) 前回扱った仕訳や勘定科目について理解しているか確認しておくこと 授業内で行った演習について復習しておくこと
14 回	学習内容 予習 復習	演習(減価償却費) 前回扱った仕訳や勘定科目について理解しているか確認しておくこと 授業内で行った演習について復習しておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	総合演習 授業で説明した勘定科目について理解しておくこと 演習を復習しておくこと

科 目 名	ビジネスモデル演習				科目コード	SA430		
英 文 名	Practice of Business Models				科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻(選択)		
担当教員	吉元 菜々子			教員コード	165		単 位 数	2単位
開講期間	後期		曜日・時限	金曜日・2時限		授業形態		演習
学位授与方針 との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける			☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う			☐	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探究する			☒	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	本授業では具体的な企業を事例にマーケティングの基礎的な知識を習得する。さらに、自らが企画案の作成を行うことを通じて、マーケティングについての理解を深める。演習科目であるので、後半に発表等がある。							
授業の狙い・ 到達目標	消費者行動の基本や商品の企画、販売などマーケティングについての基礎を身につけ、ビジネスについての理解を深めることができる。							
授業内容の レベル・関連科目	マーケティングについての入門的な講義である。「ビジネスモデル論」の履修を推奨する。また、本講義履修後の「マーケティング論」の履修もお勧めしたい。							
授業外学習 (予習・復習)	事前に授業計画を確認し、各回のトピックについて自分なりに調べるなどの予習をすること。また復習として、授業後は配布資料や自分で作成したノートをもとに授業内容を振り返ること。					授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	教科書は使用しない。必要に応じて授業内で資料を配布する。							
参考書・ その他教材	平野敦士カール監修(2018)『大学4年間のマーケティング見るだけノート』宝島社 テット、ジリアン(2022)『ANTHRO VISION(アンソロ・ビジョン)——人類学的思考で見るビジネスと世界』日本経済新聞出版							
課題に対する フィードバック	授業内で前回の授業のリアクションペーパーを適宜紹介し、質問への回答やフィードバックを行う。							
成績評価方法	平常点(40%)、提出課題(60%)により評価する。							
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。							
履修上の 注意事項や 学習上の助言	日ごろから授業に関連するニュースを意識し、調べる習慣をつけること。 授業計画は、受講生の理解度や要望に応じて若干の変更を加える場合がある。							
科目に関連した 教員の実務経験	特になし。							
担当教員への 連絡方法	質問等はメール(yoshimoto@aikoku-u.org)にて受け付ける。							

授業スケジュール

ビジネスモデル演習

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション——マーケティングとは何か シラバスを読み、授業の概要と目的について理解しておくこと。 授業の目的を理解し、今後の授業計画について確認すること。
2 回	学習内容 予習 復習	ニーズとウォンツ 過去一週間で何をどこで買ったのかについて記録しておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	誰に何を提供したいか——具体から考える 身近の誰かの生活を観察し、その行動について記録しておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
4 回	学習内容 予習 復習	STPでターゲットを絞る 商品やサービスを提供したい人物の属性(年代、性別など)について考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
5 回	学習内容 予習 復習	マーケティング・ミックス——4Pと4C 自分で決めた商品が通常どこでどれくらいの価格で売られているかについて調べておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
6 回	学習内容 予習 復習	SWOT分析 自分で決めた商品の良いところと悪いところについて考え、まとめておくこと 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
7 回	学習内容 予習 復習	競争戦略① ポジションについて考える 自分で決めた商品と競合する商品について考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
8 回	学習内容 予習 復習	競争戦略② 製品と社会の関係について考える 自分で決めた商品の歴史について調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
9 回	学習内容 予習 復習	プロモーション 好きな広告と嫌いな広告について、そう思った理由とともに考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
10 回	学習内容 予習 復習	顧客満足と意思決定 自分が商品を購入して満足した経験について振り返り、その理由について考えておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
11 回	学習内容 予習 復習	グローバル・マーケットで考える 自分で選んだ商品の日本以外での流通状況について調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
12 回	学習内容 予習 復習	企画案についてのディスカッション 企画案についておおまかにまとめ、ディスカッションの準備しておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
13 回	学習内容 予習 復習	企画案についての最終発表 企画案の発表準備しておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
14 回	学習内容 予習 復習	ビジネスと小商い 「小商い」という言葉の意味について調べ、まとめておくこと 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ——マーケティング的思考 これまでの授業で配布したレジュメを振り返り、不明点や疑問点を明確にしておくこと。 授業内容全般を振り返り、受講内容についての理解を深めること。

科目名	簿記演習			科目コード	SA431	
英 文 名	Practical Training of Bookkeeping			科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻(選択)	
担当教員	呉 鷹		教員コード	157	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・2時限		授業形態	演習
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける	◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	会計学概論よりも、演習問題を数多く解く講義になる。「知識として知っている」段階から、実践的に「使いこなせる」段階へ引き上げるための演習となる。					
授業の狙い・ 到達目標	会計学概論が簿記の入門編であるのに対し、本講義と簿記論は実践編である。簿記論より、本講義は応用力と実践性をさらに重視している。本講義を通して、日本商工会議所簿記検定3級に合格できるようなスキルアップだけでなく、簿記上の取引に関する本質的な理解を深めるようになり、3級以上の自主学習に必要とされる考える力を持てるようになる。					
授業内容の レベル・関連科目	実践的な演習を中心とする。 関連科目：会計学概論、簿記論					
授業外学習 (予習・復習)	予習・復習・講義を繰り返し、簿記の基礎知識を身につける。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	蛭川幹夫著『日商簿記ゼミ3級 教本 改訂版』実教出版(2019) 蛭川幹夫著『日商簿記ゼミ3級 問題演習』実教出版(2019)					
参考書・ その他教材	担当教員が作成する配布資料、電卓					
課題に対する フィードバック	提出された課題を確認してから、翌週の授業時に返却して解答・解説を行う。					
成績評価方法	期末試験(70%)、課題提出(20%)、平常点(10%)					
成績評価基準	演習問題の理解度、期末試験の結果などを踏まえて、本学の「学業成績判定に関する規定の基準」に基き、到達度を総合的に評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	簿記論を履修してから本講義を履修することを推奨する。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	質問や相談など、メール(wu@aikoku-u.org)でも対応可。件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載する。					

授業スケジュール

簿記演習

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(講義の概要、達成目標など)、基礎力テストと解説 シラバスを事前に確認して、教科書(教本)の第2章を復習する。 配布資料と教科書の指定ページを復習し、演習問題を完成する。
2 回	学習内容 予習 復習	簿記上の取引・勘定・仕訳、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
3 回	学習内容 予習 復習	転記、合計・残高、勘定の締め切り、各種の帳簿、試算表の作成、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
4 回	学習内容 予習 復習	商品売買(1)、演習問題と解説□ 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
5 回	学習内容 予習 復習	商品売買(2)、演習問題と解説(履修生による解説、講評を含む) 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
6 回	学習内容 予習 復習	現金の受払い、現金過不足の処理、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
7 回	学習内容 予習 復習	当座預金、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
8 回	学習内容 予習 復習	小口現金、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
9 回	学習内容 予習 復習	第1～8回講義の復習、演習問題と解説(履修生による解説、講評を含む) 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 第1～8回の講義内容演習問題と解説を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
10 回	学習内容 予習 復習	手形(1)、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
11 回	学習内容 予習 復習	手形(2)、演習問題と解説(履修生による解説、講評を含む) 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
12 回	学習内容 予習 復習	その他の期中取引(1)、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
13 回	学習内容 予習 復習	その他の期中取引(2)、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
14 回	学習内容 予習 復習	試算表の作成(1)、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 第1～14回の講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
15 回	学習内容 予習 復習	試算表の作成(2)、演習問題と解説、総括 第1～14回の講義内容、演習問題と解説を復習する。 第1～15回の講義内容、演習問題と解説を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。

科 目 名	原価計算論			科目コード	SA432	
英 文 名	Cost Accounting			科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻(選択)	
担当教員	呉 鷲		教員コード	157	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける		☒	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う		☐	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探究する		☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	原価計算は、現代の経済社会を適切に運営するために不可欠なシステムである。本講義では、原価計算モデルの基本的特徴、原価計算制度の基本構造等の専門知識と応用力を習得することができる。					
授業の狙い・ 到達目標	原価計算制度の意義と基本構造を理解し、業界別の原価計算の基本的特徴に基づいた各種試算ができるようになる。					
授業内容の レベル・関連科目	会計学概論、財務管理論と比べて、本講義では、原価の計算に関する専門知識に特化した内容を中心とする。 関連科目：会計学概論、財務管理論					
授業外学習 (予習・復習)	予習：授業の計画を事前に確認して、積極的に予習に取り組む。 復習：教科書、配布資料などを確認しながら、基礎知識を身につけるように振り返る。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	担当教員が下記の参考書に基づいて配布資料を作成して配布する。					
参考書・ その他教材	廣本敏郎・挽文子著『原価計算論』(第3版)中央経済社(2020)					
課題に対する フィードバック	提出された課題を確認してから、翌週の授業時に返却して解答・解説を行う。					
成績評価方法	期末試験(70%)、課題提出(20%)、平常点(10%)					
成績評価基準	課題への理解度、期末試験の結果などを踏まえて、本学の「学業成績判定に関する規定の基準」に基き、到達度を総合的に評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	財務管理論の知識がないと、履修は厳しい。学習効果を高めるため、前期で財務管理論を履修しておくことを強く求める。他の会計学関連科目とあわせて履修することを推奨する。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	質問や相談など、メール(wu@aikoku-u.org)でも対応可。件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載する。					

授業スケジュール

原価計算論

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(講義の概要、達成目標など)、原価計算の意義 シラバスを事前に確認する。 配布資料を復習する。
2 回	学習内容 予習 復習	原価計算モデルの基本的特徴 配布資料を予習する。 配布資料と授業中の解説(板書)を復習する。
3 回	学習内容 予習 復習	製造業の原価計算、事例分析 配布資料を予習する。 配布資料と授業中の解説(板書)を復習し、指定の事例を調べて次回の授業で発表する。
4 回	学習内容 予習 復習	サービス業の原価計算、事例分析 配布資料を予習する。 配布資料と授業中の解説(板書)を復習し、指定の事例を調べて次回の授業で発表する。
5 回	学習内容 予習 復習	現場経営と原価計算、事例分析 配布資料を予習する。 配布資料と授業中の解説(板書)を復習し、指定の事例を調べて次回の授業で発表する。
6 回	学習内容 予習 復習	原価計算制度の意義と基本構造 配布資料を予習する。 配布資料と授業中の解説(板書)を復習する。
7 回	学習内容 予習 復習	取得原価の計算、演習問題と解説 配布資料を予習する。 配布資料と授業中の解説(板書)を復習し、演習問題を完成する。
8 回	学習内容 予習 復習	費目別計算、演習問題と解説 配布資料を予習する。 配布資料と授業中の解説(板書)を復習し、演習問題を完成する。
9 回	学習内容 予習 復習	部門別計算、演習問題と解説 配布資料を予習する。 配布資料と授業中の解説(板書)を復習し、演習問題を完成する。
10 回	学習内容 予習 復習	第1～9回講義の復習、演習問題と解説(履修生による解説、講評を含む) 第1～9回の講義内容を復習する。 第1～9回の講義内容、演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
11 回	学習内容 予習 復習	標準原価計算、演習問題と解説 配布資料を予習する。 配布資料授業中の解説(板書)、演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
12 回	学習内容 予習 復習	直接原価計算、演習問題と解説 配布資料を予習する。 配布資料授業中の解説(板書)、演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
13 回	学習内容 予習 復習	利益計画とCVP分析 配布資料を予習する。 配布資料授業中の解説(板書)を復習し、演習問題を完成する。
14 回	学習内容 予習 復習	第10～13回講義の復習、演習問題と解説(履修生による解説、講評を含む) 第10～13回の講義内容、演習問題と解説を復習する。 第10～14回の講義内容、演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
15 回	学習内容 予習 復習	総括(原価計算に対する総合的な理解)、演習問題と解説(履修生による解説、講評を含む) 第1～14回の講義内容、演習問題と解説を復習する。 第1～14回の講義内容、演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。